

## 教育学研究科教員業績一覧

(2018年4月1日から2019年3月31日)

### 基礎教育学コース

小 玉 重 夫 (教授)

#### 〈論文〉

小玉重夫「原発事故とシティズンシップ教育」日本社会科教育学会編『社会科教育と災害・防災学習——東日本大震災に社会科はどう向き合うか』明石書店, 2018年8月, pp.89-94

小玉重夫「『労働と教育』再考」独立行政法人労働政策研究・研修機構『日本労働研究雑誌』697号, 2018年8月, pp.60-66

小玉重夫「ポストトゥルースの時代における教育と政治—よみがえる亡霊, 来たるべき市民—」教育思想史学会『近代教育フォーラム』第27号, 2018年9月, pp.31-38

小玉重夫「『国家と教育』における『政治的なもの』の位置—教育に政治を再導入するために」森田尚人・松浦良充編『いま, 教育と教育学を問い直す—教育哲学は何を究明し, 何を展望するか』東信堂, 2019年2月, pp.210-232

小玉重夫「シティズンシップと子どもの教育」無藤隆・大豆生田啓友・松永静子編『教育・保育の現在・過去・未来を結ぶ論点——汐見稔幸とその周辺』エイデル研究所, 2019年3月, pp.214-219

#### 〈口頭発表〉

小玉重夫「学校で哲学プラクティスを行うことのジレンマと可能性」日本哲学プラクティス学会第1回大会, 2018年8月26日, 明治大学 和泉キャンパス第一校舎

Shigeo Kodama “Teaching for the possibility of Ignorant Citizen in the context of Education in Japan” the International Symposium “Rethinking Teaching: Toward the Reconstruction of (Philosophy of) Education” at The 61st Annual Conference of Philosophy of Education Society of Japan, Yamanashi Gakuin Junior College, 2018. 10. 7.

小玉重夫「高大接続改革と18歳選挙権」2018年度日本政治学会研究大会, 2018年10月14日, 関西大学 千里山キャンパス

小玉重夫「日本のマルクス主義と学生運動の1950～

60年代」シンポジウム「学生たちの戦後 矢内原忠雄と東大学生問題研究所から見た1960年安保前後の大学生像」, 2019年3月11日(月), 東京大学 弥生講堂一条ホール, 主催 東京大学大学院情報学環吉見俊哉研究室, 協力 東京大学文書館

#### 〈その他〉

小玉重夫「社会からひきこもり, 思考する——ハンナ・アレントが示唆したもの」富士ゼロックス広報誌『グラフィケーション2』17号, 2018年5月, pp.1-7

小玉重夫「フル・インクルーシブ教育とは何か」明治図書教育zine, 2018年6月21日, <https://www.meijitosho.co.jp/eduzine/finc/?id=20180302>

小玉重夫「書評・結城忠著『高校生の法的地位と政治活動—日本とドイツ』」日本教育行政学会『日本教育行政学会年報・44』, 2018年10月, pp.244-247

佐藤和夫・小玉重夫「なぜ今市民教育/シティズンシップ教育か? ハンナ・アレントの仕事を手がかりに」『VOICE—森からの声—』第3号・別冊, 自由の森学園図書館, 2018年11月, pp.1-22

小玉重夫・神戸和佳子・奈須正裕・池田全之「『子どもから』の伝統が拓く明日の教育—市民性の育成と新教科『てつがく』の挑戦」お茶の水女子大学附属小学校・NPO法人お茶の水児童教育研究会編『新教科「てつがく」の挑戦—“考え議論する” 道德教育への提言—』東洋館出版社, 2019年2月, pp.122-137

田 中 智 志 (教授)

#### 〈著書〉

田中智志(総監修), 『デューイ著作集4 (哲学4) 確実性の探求——知識と行為の関係についての研究』(ジョン・デューイ著, 加賀裕郎訳) 東京大学出版会, 2018年9月28日.

田中智志(編者), 『日本の海洋教育の原点』(小国喜弘ほか編著) 一藝社, 2019年3月22日.

田中智志(総監修), 『デューイ著作集6 (教育1) 学校と社会, ほか』(ジョン・デューイ著, 上野

正道訳) 東京大学出版会, 2019年3月25日.

〈雑誌論文等〉

田中智志(単著), 「〈神を見る〉という隠喩——全体性なき全体性」, 『研究室紀要』第44号, 東京大学大学院教育学研究科基礎教育学研究室, 2018年7月20日, pp. 23-38.

田中智志(単著), 「喚起されるアニムス——〈鏡の隠喩〉の教育思想へ」, 『思想』, 第1130号, 岩波書店, 2018年6月5日, pp. 41-58.

田中智志(単著/講演), 「教育を支える霊性——アウグスティヌスの「心の眼」」『カトリック研究所論集』仙台白百合女子大学カトリック研究所編, 第23号, 2019年3月20日, pp. 1-23. / 『2018年度カトリック研究所研究会』(仙台白百合女子大学カトリック研究所主催, 仙台白百合女子大学) 2018年7月14日.

田中智志(基調講演), 「『人格の完成』の思想的概念——何が「パーソン」と呼ばれるのか」『人格教育フォーラム懇談会』(平和政策研究所主催, 弘済会館) 2018年3月24日.

田中智志(基調講演), 「なぜ今, カリキュラム・マネジメントなのか——現代日本の教育課題」『2018山梨私学のつどい』(山梨私学協会主催, 山梨学院大学メモリアルホール) 2018年9月29日.

山 名 淳 (教授)

〈著書〉

森田尚人・松浦良充編『教育と教育学を問い直す』東信堂, 2019年(山名淳「記憶の制度としての教育——メモリー・ペダゴジーの方へ」, 183-209頁)

坂越正樹監修, 山名淳・丸山恭司編『教育的関係の解釈学』東信堂, 2019年3月(山名淳「はじめに」, i-vii頁, 岡谷英明・山名淳「ゲオルク・ジンメル思想における関係論とその可能性(第5章)」, 61-78頁)

〈雑誌論文等〉

小野文生・山名淳・矢野智司・岡部美香・平田仁胤・生澤繁樹「教育哲学は〈災害と厄災の記憶〉にいかに向き合うのか——『災害と厄災の記憶を伝える』が提起しえたこと/しえなかったこと」『教育哲学研究』117号, 2018年, 98-104頁

山名淳「私はなぜ『田園』研究者になったのか——文化批判の批判を自分史に重ねて」東京大学大学院教育学研究科基礎教育学研究室編『研究室紀

要』44号, 2018年7月, 13-21頁

山名淳「自著紹介 山名淳・矢野智司編『災害と厄災の記憶を伝える——教育学は何ができるのか』」

『近代教育フォーラム』27号, 2018年9月, 171頁

山名淳「もう一つの『島の学校』——学校魅力化プロジェクトとしてのドイツ『新教育』」中四国教育学会編『教育学研究ジャーナル』24号, 2019年, 63-69頁

〈学会発表・講演等〉

Yamana, J.: Über-Setzung des kommunikativen und kulturellen Gedächtnisses: Zur Interpretation des pädagogischen Projektes “Gemälde der Atombombe” in Hiroshima (コミュニケーション的記憶から文化的記憶へのトランスレーション) Colloquiums der „Memory Studies Platform“ in der Johann Wolfgang Goethe Universität Frankfurt (フランクフルト大学「メモリー・スタディーズ・プラットフォーム」コロキウム (Astrid Erll 教授)), 2018年7月3日, ドイツ: フランクフルト大学

Yamana, J.: Weg zur „Memory Pedagogy“: Zu meiner Erfahrungen im Umgang mit Deutschland (〈メモリー・ペダゴジー〉への道——ドイツとの交流経験について) [招待有り] Second Interdisciplinary and Research Alumni Symposium iJaDe, 2018年9月3日, 神戸大学

山名淳「カストロフイーのコミュニケーション的記憶が創られるとき——「原爆の絵」プロジェクトにおける〈語る/聴く〉行為と絵画制作」教育哲学会第61回大会ラウンドテーブル, 2018年10月7日, 山梨学院大学

山名淳「『もじゃペー』から子どもの環境を考える——ドイツの絵本が教えてくれる教育という力」[招待有り] こども発達学科開設記念シンポジウム, 2018年11月10日, 武蔵野大学

Yamana, J.: Memory Studies and Teacher Education: Hiroshima City as an Architectural Space of Memory and its Pedagogization [招待有り] International Conference: Teacher Education in (Trans) Formation: Global Trends, National Processes and Local Factors, 2018年11月13日, ドイツ: ドレスデン工科大学

山名淳「もう一つの『島の学校』——学校魅力化プロジェクトとしてのドイツ『新教育』」[招待有り] 平成30年度中国四国教育学会第70回大会 公開シンポジウム「地域課題に教育学はどう応答するか」, 2018年11月17日, 島根大学

山名淳「ビルドゥング・アーキテクチャ・ゲヴァルト——教育史記述における規律論の限界を超えるための問題枠組を求めて」比較教育社会史研究会 2018年秋季例会, 2018年12月16日, 比較教育社会史研究会, JEC日本研修センター江坂

山名淳「『もじゃペー』から子どもを考える」[招待有り] 広島文化学園大学第8回子ども研究会, 2019年1月12日, 広島文化学園大学

Yamana, J.: Catastrophe, Commemoration and Education: On the Concept of Memory Pedagogy [招待有り] ALPE (Asian Link of Philosophy of Education) Winter Seminar, 2019年1月25日, 台湾: 国立嘉義大学

## 大塚 類 (講師)

### 〈著書〉

大塚類 (分担執筆), 第一章「私って過保護にされてる?——臨床現象学からの処方箋」『生きづらさへの処方箋』(小山真紀他編), ナカニシヤ出版, 2019, 総ページ数154

### 〈雑誌論文〉

大塚類 (共著, 筆頭著者)「在宅医療患者の語りから探る希望」『教育研究』(63), 2019, pp.73-84

大塚類 (単著)「教育サバイバーの語りに関する現象学的分析」『青山学院大学 教育人間科学部紀要』(10), 2019, pp. 125-135

## 比較教育社会学コース

### 恒吉 僚子 (教授)

#### 〈学術論文・分担執筆〉

Tsuneoyoshi, Ryoko eds. (2018). *Globalization and Japanese "Exceptionalism" in Education: Insider's Views into a Changing System*. New York: Routledge.

Tsuneoyoshi, Ryoko. (2018). "The Internationalization of Japanese Education: 'International' Without the 'Multicultural'" *Educational Studies in Japan: International Yearbook*, No. 12, March, pp. 49-59.

Tsuneoyoshi, Ryoko. (2019). "Discussing the "Multicultural" in Japanese Society." *Education in Japan: Reforms of Education Governance and Quality Assurance*, edited by Omomo, T., Katsuno, M. and Kitamura, Y. Singapore: Springer, 2019, pp. 177-195 (Ch.11).

恒吉僚子 (2019).「スタンダードとテスト改革の20年—アメリカのメリーランド州X郡R校の事例を通して」東京大学教育学部教育ガバナンス研究会編『グローバル化時代の教育改革—教育の質保

証とガバナンス』東京大学出版協会, 2019, pp. 143-153.

#### 〈学会発表等〉

2018年3月「教育研究の国際化」教育関連学会連絡協議会, シンポジウム, 話題提供, 東京大学。

2018年3月3日「特別活動と教科教育がもたらす認知的・非認知的スキルのコラボレーション」(子どもの貧困に教育・福祉はどのように立ち向かっているか—認知スキルと非認知スキルのコラボレーションが子どもの未来をつくる—) 東京大学教育学研究科・学校教育高度化・効果検証センター主催。(ビデオ出演)。

2018年9月"Enhancing Teaching & Learning, as well as Holistic Education, through Lesson Study & Tokkatsu." Lecture at Singapore International School of Bangkok PU Campus, September, 7<sup>th</sup>, Bangkok.タイ, 招待講演。

2018年10月 Learning to Grow Together Seminar. Bandung, GagasCeria/BPI primary school. Indonesia. 招待講演。

2018年11月 Japan's Educational System and Talent Cultivation: The Current Situation of Education and Challenges in Japan, for presentation at the 21<sup>st</sup> Century Talent Cultivation: Autonomy, Interdisciplinarity, and Innovation in the Educational System, November 30, 2018 (國家教育研究院 National Academy for Educational Research, New Taipei City, Taiwan), hosted by the National Academy for Educational Research. 基調講演。

#### 〈その他〉

恒吉僚子, 高橋史子, 草薨佳奈子 (2018).「教育モデルが国境を越える時代を俯瞰する—比較教育学の原点にもどる」『比較教育学研究』56号, 186-194, 大会報告。

恒吉僚子 (2018).「近未来が求める子どもの資質と能力」『日本教育』4・5月合併号, No. 476: 12-15.

恒吉僚子 (2018). Essay Education for Life. *Tokkatsu Series 3. DVD*. 日本型21世紀対応教育の国際モデル化に関する国際比較研究—多元的モデルの構築 科学研究費基盤A (代表: 恒吉僚子), 学校教育高度化・効果検証センター。

### 橋本 鉦市 (教授)

#### 〈報告書〉

橋本鉦市編『教育領域における専門業務のアウトソーシングと教育専門職の変容に関する実証的研

究』（2017～2020年度科学研究費補助金・基盤B「中間報告」），全270頁，2019年3月。

#### 〈論文〉

橋本鉦市「政策議論における『アウトソーシング』系単語の出現と内容—国会会議録における関連用語を手がかりに—」『教育領域における専門業務のアウトソーシングと教育専門職の変容に関する実証的研究』（2017～2020年度科学研究費補助金・基盤B「中間報告」），2019年3月，7-20頁。

橋本鉦市「メディア・世論における教育アウトソーシングに関する報道と変容—新聞記事の計量テキスト分析を通して—」同上，21-30頁。

橋本鉦市・藪波宏樹「教育産業の経営認識に関する計量テキスト分析—決算短信にみる経営成績，経営方針，リスクについて—」同上，31-42頁。

日下田岳史・小島佐恵子・谷村英洋・橋本鉦市「『学士課程教育を担う人材・組織に関する調査』について」同上，2019年3月，55-72頁。

日下田岳史・小島佐恵子・谷村英洋・橋本鉦市「大学教育のアウトソーシングに関するインタビュー調査について」同上，2019年3月，109-238頁。

橋本鉦市「専門職養成プロセスにおける実務要件（2）—戦後における医師の実地修練（インターン）・臨床研修を中心に—」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第58巻，2019年3月，1-19頁。

#### 〈その他〉

橋本鉦市「日本の大学」「専門職教育」「専門職資格」「専門職と大学」「帝国大学」など『大学事典』（児玉善仁ほか編），平凡社，2018年6月

### 本 田 由 紀（教授）

#### 〈著書〉

本田由紀（編著），『文系大学教育は仕事の役に立つのか』，ナカニシヤ出版，2018，総頁数202。

本田由紀（単著），「若者の困難・教育の陥穽」，吉見俊哉編『平成史講義』ちくま新書，2019，pp.119-145。

Honda, Y., "Background of "Individualized Meritocracy" Among Japanese Youth: Social Circulation Model of Postwar Japan and Its Collapse: A Comprehensive Analysis of Education Reforms and Practices," Kitamura, Y. et.al.(eds), *Education in Japan: A Comprehensive Analysis of Education Reforms and Practices*, Springer, 2019, pp.159-176.

#### 〈雑誌論文〉

本田由紀（単著），「“大学での専門分野と仕事との関連度”が職業的アウトカムに及ぼす効果—男女差に注目して—」，RIETI Discussion Paper Series 19-J-001，経済産業研究所，2019，総ページ数19。

本田由紀（単著），「日本社会と教育の〈いま〉：ハイパー・メリトクラシーからハイパー教化へ」，『近代教育フォーラム』第27号，2018，教育思想史学会，2018，pp.57-65。

本田由紀（単著），「第2次安倍政権以降の女性政策と少子化対策：矛盾と行き詰まりの背後にあるもの」，『公衆衛生』82(10)，2018，pp.736-740。

本田由紀（単著），「若手会員のための論文指導ワークショップの記録」，『教育学研究』85(3)，日本教育学会，2018，pp.398-405。

本田由紀（単著），「なぜ国家が家族に干渉するのか：安倍政権の家族政策を斬る」，『女性&運動』277号，新日本婦人の会，2018，pp.32-37。

本田由紀（学会発表），「“大学教育と仕事との関連度”の効果と規定要因—男女差に注目して—」，『日本教育社会学会第70回大会 発表要旨収録』，2018，p.264-265。

### 額 賀 美 紗 子（准教授）

#### 〈著書〉

Tokunaga, Tomoko, Misako Nukaga, and Fumiko Takahashi. 2018. "Growing Up in Multicultural Japan: Diversifying Educational Experiences of Immigrant Students" Pp. 155-174 in Akiyoshi Yonezawa, Yuto Kitamura, Yamamoto Beverley, Tomoko Tokunaga eds. *Japanese Education in a Global Age: Sociological Reflections and Future Directions*. Singapore: Springer.

#### 〈雑誌論文〉

岡村郁子・額賀美紗子「海外経験がキャリア形成にもたらすインパクト：大学短期留学経験者と帰国生の語りから」『異文化間教育』48: 35-52。

#### 〈その他執筆〉

額賀美紗子『質的心理学辞典』能智正博ほか編，項目「マルチサイテッド・エスノグラフィー」「チーム・エスノグラフィー」「解釈的アプローチ」，新曜社。

額賀美紗子『教育社会学事典』日本教育社会学会編，項目「多文化共生と教育」丸善出版。

額賀美紗子「日本の教育改革と海外帰国生への影響」『月刊・海外子女教育』2018年5月号，12-

18. 海外子女教育振興財団.

額賀美紗子「『母親による徹底育児』の圧力：献身的な母親像は変えられるか」『究：ミネルヴァ通信』(86), 16-19, ミネルヴァ書房.

#### 〈学会発表〉

額賀美紗子「外国人家族の《見えない》子育て困難と支援ニーズ—外国人散在地域における草の根運動からの問題提起—」, 異文化間教育学会第39回大会(新潟大学), 2018年6月.

額賀美紗子・藤田結子「共働き世帯にみられる「教育する家族」のジレンマ—働く母親による幼児期からの徹底育児—」, 家族社会学会大会(中央大学), 2018年9月.

清水睦美・児島明・角替弘規・坪田光平・額賀美紗子・三浦綾希子, 「ニューカマー二世世代の適応の様相—質問紙調査に基づくエスニシティ間比較」, 日本教育社会学会第70回大会(佛教大学), 2018年9月.

#### 〈講演〉

額賀美紗子「多民族化社会と教育のディレンマ」, 東京大学公開講座, 2018年6月.

額賀美紗子「グローバル時代の能力観と能力形成—海外帰国子女教育の視点から」, 海外子女教育振興財団学校会員連絡協議会, 2018年11月.

額賀美紗子「移民的背景をもつ子どもたちの家庭環境と日本社会への適応」, 日本学術会議主催学術フォーラム「乳幼児の多様性に迫る」, 2018年11月.

額賀美紗子「多文化共生と相互理解のための小学校英語」, 和光鶴川小学校シンポジウム「外国語教育, 何を大切にすすめますか」, 2019年1月.

### 中 川 宗 人 (特任研究員)

#### 〈雑誌論文〉

中川宗人(単著), 「武藤山治の実業教育論——戦前期日本における実業教育論の一断面」, 『産業教育学研究』第48巻2号, 日本産業教育学会, 2018, pp.13-20.

中川宗人(単著), 「労働における〈日本型システム〉論の反省と展望」, 『学術の動向』第23巻9号, 日本学術協力財団, 2018, pp.22-27.

### 生涯学習基盤経営コース

牧 野 篤 (教授)

#### 〈著書・単著〉

牧野篤, 『公民館はどう語られてきたのか—小さな社会をたくさんつくる・1』, 東京大学出版会, 2018, 総頁数320

#### 〈論文・単著・日本語〉

牧野篤, 『公民館は, どう「語られて」きたのか—戦後七〇年の議論から考える公民館のこれから—』(冊子体), 公益社団法人全国公民館連合会全国公民館研究集会東京大会(2018年11月)配付資料, 総頁数39

牧野篤, 「得られた知見と今後の展望」, 東京大学大学院教育学研究科社会教育学・生涯学習論研究室「ぎふスーパーシニア」共同研究チーム『多世代がともに生きる社会のために—「ぎふスーパーシニア」共同研究第1年目の報告—/学習基盤社会研究・調査モノグラフ13』, 2018年, 52-59頁

牧野篤, 「前提としての社会変化」, 東京大学大学院教育学研究科社会教育学・生涯学習論研究室「ぎふスーパーシニア」共同研究チーム『多世代がともに生きる社会のために—「ぎふスーパーシニア」共同研究第1年目の報告—/学習基盤社会研究・調査モノグラフ13』, 2018年, 3-11頁

牧野篤, 「特別連載第4回 公民館はどう語られてきたのか(4)—議論の枠組みを整理する—」, 『月刊公民館』(2018年4月号(通巻731号)), 30-40頁

牧野篤, 「特別連載第5回 公民館はどう語られてきたのか(5)—議論の枠組みを整理する—」, 『月刊公民館』(2018年5月号(通巻732号)), 36-46頁

牧野篤, 「特別連載第6回 公民館はどう語られてきたのか(6)—議論の枠組みを整理する—」, 『月刊公民館』(2018年6月号(通巻733号)), 42-51頁

牧野篤, 「特別連載第7回 公民館はどう語られてきたのか(7)—議論の枠組みを整理する—」, 『月刊公民館』(2018年7月号(通巻734号)), 35-44頁

牧野篤, 「特別連載第8回 公民館はどう語られてきたのか(8)—議論の枠組みを整理する—」, 『月刊公民館』(2018年8月号(通巻735号)), 31-45頁

牧野篤, 「特別連載第9回 公民館はどう語られてきたのか(9)—議論の枠組みを整理する—」, 『月刊公民館』(2018年9月号(通巻736号)), 34-46頁

牧野篤, 「特別連載第10回 公民館はどう語られてきたのか(10)—議論の枠組みを整理する—」, 『月刊公民館』(2018年10月号(通巻737号)), 36-45頁

牧野篤, 「公民館とはなんなのか, どうつくられてきたのか」, 『都市問題』2018年10月号 (通巻第109巻第10号), 46-59頁

#### 〈論文・単著・英語〉

Makino, A., Kominkan: A New Infrastructure of Society in Japan, Peter Kearns and Denise Reghenzani-Kearns ed., "TOWARDS GOOD ACTIVE AGEING FOR ALL: In a context of deep demographic change and dislocation", First Report of the PASCAL & PIMA SIG on Learning in Later Life, December 2018 (<http://pascalobservatory.org/pascalnow/pascal-activities/news/towards-good-active-ageing-all-context-deep-demographic-change-and->), pp.15-17 (2018年12月11日確認)

#### 〈その他〉

牧野篤, 「人たらしめ!」, 『別冊KURA・飯田HIDA』, 2018年, 26頁

牧野篤, 「座談会 公民館がひらく 地域の未来」, 『月刊公民館』2018年6月号, 4-18頁 (山崎亮・吉田博彦との座談会)

牧野篤, 「同時代の問題～新聞記事から考える人権～」, 「学びのクリエイターになる!」実行委員会『学びのクリエイターになる!』, 日本青年館, 2018年, 31-34頁 (和氣正典と対談)

牧野篤, 「学校づくりはまちづくり」, 「学びのクリエイターになる!」実行委員会『学びのクリエイターになる!』, 日本青年館, 2018年, 43-47頁 (井上尚子・近藤真司と対談)

牧野篤, 「超高齢社会の地域デビューと社会参加～ちいさな楽しい社会をたくさんつくる～」, 「学びのクリエイターになる!」実行委員会『学びのクリエイターになる!』, 日本青年館, 2018年, 62-65頁

牧野篤, 「超高齢社会から人生100歳社会へ—この社会をどうとらえるのか—」, 東京大学大学院教育学研究科社会教育学・生涯学習論研究室「ぎふスーパーシニア」共同研究チーム『多世代がともに生きる社会のために—「ぎふスーパーシニア」共同研究第1年目の報告—/学習基盤社会研究・調査モノグラフ13』, 2018年, 1-2頁

牧野篤, 「学校を「信頼」で満たされた, 希望を語れる場所に」, 杉並区教育委員会『平成30年度杉並区教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価 (平成29年度分) 報告書』, 2018年, 24-26頁

牧野篤, 「はじめに: 希望の薄明かりが差し込む社会へ」, 一般社団法人全国住宅産業協会『不動産後見アドバイザーテキスト』, 2019年, i-iii頁

牧野篤, 「公民館を地域づくりの舞台に—新しい社会基盤としての公民館—」, 広島県公民館連合会第68回広島県公民館大会実行委員会『第68回広島県公民館大会記念公演報告集』(冊子体), 2019年, 総頁数33

牧野篤, 「行政説明」, 北海道公民館協会『平成30年度第62回北海道公民館大会inなよろ 大会集録 テーマ「地方創生の実現を目指す公民館活動とは」～公民館を核とした地域づくり～』, 2019年, 12-15頁

牧野篤, 「パネルディスカッション「学校・家庭・地域の連携と公民館」」, 北海道公民館協会『平成30年度第62回北海道公民館大会inなよろ 大会集録 テーマ「地方創生の実現を目指す公民館活動とは」～公民館を核とした地域づくり～』, 2019年, 27-38頁

牧野篤, 「全体会」, 北海道公民館協会『平成30年度第62回北海道公民館大会inなよろ 大会集録 テーマ「地方創生の実現を目指す公民館活動とは」～公民館を核とした地域づくり～』, 2019年, 48-49頁

牧野篤, 「シンポジウム 公民館がひらく日本の未来(1)」, 『月刊公民館』(2019年2月号), 7-23頁

牧野篤, 「シンポジウム 公民館がひらく日本の未来(2)」, 『月刊公民館』(2019年3月号), 7-23頁

牧野篤, 「一期一会の恩送り—キッズセミナーを振り返って—」, 松山鮎子+東京大学大学院教育学研究科社会教育学・生涯学習論研究室『子どもをめぐるちいさなまちづくりのために—「東大キッズセミナー」のとりくみから—/学習基盤社会研究・調査モノグラフ14』, 2019年, pp.1-4

#### 李 正 連 (准教授)

##### 〈著書〉

李正連 (単著), 「東洋における近代教育とジェンダー」, 教育史学会60周年記念出版編集委員会編『教育史研究の最前線Ⅱ—創立60周年記念』, 六花出版, 2018, pp.184-191.

Lee, Jeongyun (2019). Restructuring of Social Education and Lifelong Learning, and Community Governance. In Y. Kitamura, T. Omomo, & M. Katsuno (Eds.), *Education in Japan: A Comprehensive Analysis*

*of Education Reforms and Practices* (pp.53-65).  
Singapore: Springer.

李正連 (単著), 「韓国における教育福祉と平生教育関係職員」, 松田武雄編著『社会教育と福祉と地域づくりをつなぐー日本・アジア・欧米の社会教育職員と地域リーダーー』, 大学教育出版, 2019, pp.94-109.

#### 〈論文〉

李正連 (単著), 「韓国における学校と地域協働の地域教育福祉ネットワークの構築ーソウル市『地域教育福祉センター』の取り組みを中心にー」, 『社会教育と福祉とコミュニティ支援の比較研究』(平成29年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書・その2(研究代表者:松田武雄)), 2018, pp.45-54.

李正連 (単著), 「외국의 농촌교육문제와 대응: 일본(外国の農村教育問題と対応:日本)」, ヤン・ヒジュン(양희준)編『학생수 감소에 따른 농촌교육 실태 및 대응방안(生徒数の減少による農村教育の実態及び対応方案)』, 韓国教育開発院, 2018, pp.257-273(韓国語).

#### 〈学会発表・講演等〉

李正連「植民地期朝鮮における女教師の実態と役割に関する研究ー朝鮮人女教師の社会教育活動に着目してー」, アジア教育学会第13回研究大会, 2018.11.24, 早稲田大学.

#### 新 藤 浩 伸 (准教授)

##### 〈著書〉

小林真理(編), 『文化政策の現在3 文化政策の展望』, 東京大学出版会, 2018年5月, 総頁数308(分担執筆).

##### 〈論文〉

新藤浩伸, 「「实际生活に即する文化的教養」とは何か」, 月刊社会教育, 62(11), pp.10-17, 2018年11月.

##### 〈講演等〉

新藤浩伸(コメンテーター), 「第2セッション 阿智村における全村博物館の試み」, 第31回 現代生涯学習研究セミナー, 2019年3月24日.

高井正・新藤浩伸(助言者), 「第二課題別集会「地域づくり事業の実践ー多摩コンファレンス」」, 第55回東京都公民館研究大会, 2019年2月3日.

新藤浩伸, 「公会堂からみる人々の暮らしー集いの場所の昔と今ー」, まちなか大学 長岡の100年ー開府300年から400年までー, 2018年11月16日.

#### 〈その他〉

新藤浩伸, 「大村智先生インタビュー余話 科学の心と情緒」, 中央線, 75, pp.18-20, 2018年12月.

新藤浩伸, 「都心に響く歌舞伎の声 東京都中央区・新富座こども歌舞伎」, 月刊社会教育, 62(9), pp.74-77, 2018年9月.

新藤浩伸, 「地域文化をめぐる社会教育研究から」, 社会教育学研究, 54, pp.94-95, 2018年9月.

新藤浩伸, 「文化と社会教育ー表現を磨き, 美意識を育てる」, 月刊社会教育, 62(4), pp.25-28, 2018年4月.

#### 大学経営・政策コース

##### 両 角 亜希子 (准教授)

##### 〈著書〉

両角亜希子(分担執筆)「大学の組織」東京大学 大学経営・政策コース編『大学経営・政策入門』東信堂, 2018年8月31日, 60-85頁

Morozumi, Akiko(分担執筆). "Higher Education Reform: Focusing on National University Reform". In Yuto Kitamura, Toshiyuki Omomo, Masaaki Katsuno(Eds), *Education in Japan - A Comprehensive Analysis of Education Reforms and Practices*, pp197-209, 2019, pringer.

##### 〈雑誌論文〉

両角亜希子(2018)「教員から見た大学の自律性」『IDE現代の高等教育』No.603, 2018年8-9月号, 44-50頁

両角亜希子(2018)「ガバナンス改革と教職協働でスピーディーな改革を実現(事例: 芝浦工業大学)」リクルート『カレッジマネジメント』212号, 2018年9-10月号, 40-43頁

両角亜希子(2018)「大学経営人材の現状と課題」日本高等教育学会『日本高等教育学会第21回大会 公開シンポジウム報告書 大学経営人材のプロフェッショナル化をどう進めるかーSD・教職協働の制度化を踏まえてー』(2018年11月1日) 11-24頁

両角亜希子(2018)「私立大学のガバナンスの特質と課題」『IDE現代の高等教育』No.606, 2018年12月号, 57-62頁

両角亜希子(2018)「私立大学のガバナンス」SMBC日興証券『こうえき』第3号, 11-13頁

両角亜希子(2019)「ボトムアップでの入試・教学一体改革(事例: 西南学院大学)」リクルート『カ

レッジマネジメント』214号, 2019年1-2月号, 26-29頁

両角亜希子 (2019)「協力・融合をキーワードに国際化を推進 (事例: 明治大学)」リクルート『カレッジマネジメント』215号, 2019年3-4月号, 24-27頁

両角亜希子 (2019)「学長のリーダーシップとその能力養成」『名古屋高等教育研究』第19号, 171-197頁

両角亜希子・長島万里子 (2019)「保育者養成校の教育内容に関する実証的研究—四大化は質の高度化につながっているのか—」『大学経営政策研究』第9号, 1-18頁

#### 〈口頭発表〉

両角亜希子「高等教育政策と私立大学の改革の方向性」京都橘大学 マスタープランセミナー (2018年4月11日, 京都橘大学)

両角亜希子「大学経営人材の現状と課題」日本高等教育学会第21回大会 公開シンポジウム「大学経営人材のプロフェッショナル化をどう進めるか」(2018年6月3日, 桜美林大学)

両角亜希子・長島万里子「保育者養成の高学歴化に関する研究—機関アンケート調査から—」東京大学発達保育実践政策学センター関連SEED研究ポスター発表 (2018年8月5日, 東京大学安田講堂)

両角亜希子「私立大学を支える教学マネジメントのあり方について」日本私立大学連盟 平成30年度教学担当理事者会議 (2018年8月27日, ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋)

両角亜希子「大学経営と経営人材の育成—現状・課題・展望」東北大学 CDPシリーズ 第1回「大学経営の危機と経営人材の育成」(2018年9月6日, 東北大学)

両角亜希子「学長のリーダーシップとその能力養成」名古屋大学高等教育研究センター客員教授セミナー (2018年9月26日, 名古屋大学)

両角亜希子「指定討論」名古屋大学高等教育研究センター 20周年記念シンポジウム「日本における高等教育研究の現状とセンターの役割」(2018年9月27日, 名古屋大学)

両角亜希子「日本の大学経営人材の現状と課題」日本の大学ガバナンス・経営・IRに関する台湾大学視察団 (2018年10月4日, 東京大学教育学部)

両角亜希子「趣旨説明」東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策コース「私立大学の新任学長セ

ミナー」(2018年12月26日, 東京大学伊藤国際学術研究センター)

両角亜希子「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン答申をどう読むか」平成30年度第2回公立大学学長会議 (2019年1月24日, 学士会館)

両角亜希子「私立大学のガバナンス」東京理科大学学長勉強会 (2019年3月12日, 東京理科大学学長室)

両角亜希子「データから見る私大ガバナンス」2018年度IDE高等教育研究フォーラム「私立大学のガバナンス」(2019年3月28日, 一橋大学一ツ橋講堂2階会議室)

#### 〈書評・寄稿等〉

書評 篠田道夫著『大学戦略経営の核心』『教育社会学研究』第102集, 2018年6月

両角亜希子「私立大学のガバナンス 積極的な情報公開を」日本経済新聞2018年7月30日 (寄稿)

両角亜希子「学長人材の育成, 経営ノウハウ共有が急務」日本経済新聞2019年2月11日 (寄稿)

書評 高野篤子編「イギリス大学経営人材の養成」『大学教育学会誌』第40巻第2号 (通巻第78号), 2019年1月

両角亜希子「大学連携へ「自前主義」脱却」読売新聞論点2019年3月6日 (寄稿)

衆議院文部科学委員会「学校教育法等の一部を改正する法律案 (内閣提出第22号)」参考人, 2019年3月20日

#### 教育心理学コース

岡田 猛 (教授)

#### 〈論文〉

石黒千晶・岡田猛. (2018). 絵画鑑賞はどのように表現への触発を促進するのか? *心理学研究*, 90, 21-31. <https://doi.org/10.4992/jjpsy.90.17056>

Shimizu, D., & Okada, T. (2018). How do creative experts practice new skills? Exploratory practice in breakdancers. *Cognitive Science*, 42(7), 2364-2396. doi: 10.1111/cogs.12668

#### 〈国際学会, 国際シンポジウム発表等〉

Ishiguro, C. & Okada, T. (2018). How art appreciation inspires artistic inspiration? Creativity Conference at Southern Oregon University, Ashland, U.S.A.

Yokochi, S., & Okada, T. (2018). The processes of young artists' art making: A qualitative analysis of their modification of conditions in the process of art



- making. Creativity Conference at Southern Oregon University, Ashland, U.S.A.
- Takagi, K., Okada, T., Yokochi, S. (2018). Formation of an art concept: How is the interaction of perception and action utilized by a contemporary artist in concept formation? Creativity Conference at Southern Oregon University, Ashland, U.S.A.
- Nakano, Y., & Okada, T. (2018). Constructing design guidelines for creation-focused contemporary dance educational program for non-dance majors. Creativity Conference at Southern Oregon University, Ashland, U.S.A.
- Wang, S., Takagi, K., Okada, T. (2018). The Influence of Process Modification on Novices' Creativity in Drawing: with a focus on the preconceived perspective. Creativity Conference at Southern Oregon University, Ashland, U.S.A.
- Shimizu, D., & Okada, T. (2018). The Constraints Alteration Model for Creation in Performing Arts: The Case of Breakdancing. Creativity Conference at Southern Oregon University, Ashland, U.S.A.
- Takagi, K., Yokochi, S., & Okada, T. (2018). Formation of an art concept: How is visual information from drawing utilized by an artist in concept formation? Creativity Conference at Southern Oregon University, Ashland, U.S.A.
- 針 生 悦 子 (教育心理学コース・教授)**
- 〈学術論文〉**
- Yamamoto, H.W. & Haryu, E. The role of pitch pattern in Japanese 24-month-olds' word recognition. *Journal of Memory and Language*, 99, 90-98. doi: 10.1016/j.jml.2017.11.003. 2018年 4 月.
- 針生悦子「日本語の擬音語“感覚”の発達」子ども学, 6, 22-35. 2018年 5 月.
- Sanefuji, W. & Haryu, E. Preschoolers' development of theory of mind: The contribution of understanding psychological causality in stories. *Frontiers in Psychology*, doi: 10.3389/fpsyg. 2018.00955. 2018年 6 月.
- 池田慎之介・針生悦子「幼児期から児童期の子どもにおける発話からの感情判断の発達」心理学研究, 89, 302-308. 2018年 8 月.
- 金重利典・針生悦子・奥村優子・小林哲生「3-5 歳児は出身地の方言話者から学ぼうとするか?— 東京方言と岡山方言の比較—」電子通信情報学会技術報告 (資料番号 HCS2018-61), 118(437), 77-82. 2019年 2 月.
- 〈学会発表〉**
- 針生悦子「母親の育児語使用と子どもの初期語彙獲得: 18か月と24か月における 2 時点における縦断調査」日本発達心理学会第30回大会, 早稲田大学, 2019年 3 月.
- Haryu, E., Mothers' use of infant-directed vocabulary and its relation to children's early language development. *Poster presented at the Biennial Meeting of the Society for Research in Child Development*, Baltimore, USA. 2019年 3 月.
- Kaneshige, T., Haryu, E., Hamana, M., Ikeda, S., & Huang, J., Infants use emotional expressions observed in one situation to predict the expresser's behavior in another. *Poster presented at the Biennial Meeting of the Society for Research in Child Development*, Baltimore, USA. 2019年 3 月.
- 〈その他〉**
- 針生悦子「言葉の出る前後の発達と働きかけ」チャイルドヘルス, 21, 23-26. 2018年 8 月.
- 針生悦子「品詞でもなく語用論でもなく」ベビーサイエンス, 18, 28-29. 2019年 3 月.
- 岡 田 謙 介 (准教授)**
- 〈著書〉**
- 岡田謙介 (2019), 効果量と信頼区間, メタ分析. 繁梲算男・山田剛史 (編) 心理学統計法 (公認心理師の基礎と実践 5), 遠見書房, 14章, pp. 260-274.
- 岡田謙介 (2018), 発達心理学研究における現代的な統計モデリング, 河合優年・内藤美加・斉藤こずゑ・高橋恵子・高橋知音・山祐博 (編) 児童心理学の進歩, 2018年版, pp. 283-287.
- 岡田謙介 (2018), オンライン調査における回答項目数のモデリング, 豊田秀樹 (編著) たのしいベイズモデリング: 事例で拓く研究のフロンティア, 北大路書房, 10章, pp.103-114.
- 〈論文〉**
- Okada, K. & Mayekawa, S. (2018). Post-processing of Markov chain Monte Carlo output in Bayesian latent variable models with application to multidimensional scaling. *Computational Statistics*, 33, 1457-1473.
- Shibuya, Y., Okada, K., Ogawa, T., Matsuda, I. &

Tsuneoka, M. (2018). Hierarchical Bayesian models for the autonomic-based concealed information test. *Biological Psychology*, 132, 81-90.

岡田謙介 (2018), ベイズファクターによる心理学的仮説・モデルの評価, 心理学評論, 61, 101-115.

三浦麻子・岡田謙介・清水裕士 (2018), 統計革命: Make statistics great again—特集号の刊行にあたって—心理学評論, 61, 1-2.

#### 〈招待講演〉

岡田謙介 (2018年8月), ベイズ統計学の考え方と方法, 日本認知心理学会第16回大会, ペーシック&フロンティアセミナー, 立命館大学

岡田謙介 (2018年9月), 心理学における再現性の問題と「社会的ジレンマ」の解決へ向けて, 日本教育心理学会大会第60回総会, 準備委員会企画チュートリアルセミナー, 慶應義塾大学

岡田謙介 (2018年9月), 心理学におけるベイズ統計的方法の活用, 日本心理学会第82回大会, 大会準備委員会企画シンポジウム「ベイズ理論の展開」, 東北大学

岡田謙介 (2019年1月), 教育工学研究におけるベイズ統計の応用・RとRStudioを使ったベイズ統計の演習, 日本教育工学会, 2018年度冬の合宿研究会, 産業技術大学院大学

#### 〈学会発表〉

Bunji, K., & Okada, K. (2018, July). Extending the diffusion-IRT model to forced-choice response time data. IMPS 2018, the 83rd Annual Meeting of the Psychometric Society. Columbia University.

Yamaguchi, K., & Okada, K. (2018, July). A hybrid cognitive diagnostic model. IMPS 2018, the 83rd Annual Meeting of the Psychometric Society. Columbia University.

Ikeda, T., & Okada, K. (2018, July). Comparative evaluation of the graded response and factor analysis models. IMPS 2018, the 83rd Annual Meeting of the Psychometric Society. Columbia University.

Okada, K., Hojo, D., & Takahashi, Y. (2018, July). Bayesian item response mixture model for evaluating the stability of response style. MathPsych/ICCM 2018, the 51st Society for Mathematical Psychology & 16th International Conference on Cognitive Modelling Meetings. University of Wisconsin-Madison.

Bunji, K., & Okada, K. (2018, July). Modeling forced-

choice version of questionnaires on the big five factors for reducing response biases. MathPsych/ICCM 2018, the 51st Society for Mathematical Psychology & 16th International Conference on Cognitive Modelling Meetings. University of Wisconsin-Madison.

Hojo, D., & Okada, K. (2018, July). Classification and individual differences of response style using anchoring vignettes. MathPsych/ICCM 2018, the 51st Society for Mathematical Psychology & 16th International Conference on Cognitive Modelling Meetings. University of Wisconsin-Madison.

Nagano, S., & Okada, K. (2018, July). Examining characteristics of age-related memory impairment MathPsych/ICCM 2018, the 51st Society for Mathematical Psychology & 16th International Conference on Cognitive Modelling Meetings. University of Wisconsin-Madison.

北條大樹・岡田謙介 (2018年9月), 係留ビネット法に適した多次元名義反応モデルの提案, 日本行動計量学会第46回大会, 慶應義塾大学.

山口一大・岡田謙介 (2018年9月), DINAモデルにおける変分ベイズ推論, 日本行動計量学会第46回大会, 慶應義塾大学.

藤田和也・岡田謙介 (2018年9月), 主観確率の測定法の改善について: 思考状態に着目して, 日本行動計量学会第46回大会, 慶應義塾大学.

菱山完・岡田謙介 (2018年9月), 探求型教授法の因果効果の検討, 日本行動計量学会第46回大会, 慶應義塾大学.

山口一大・岡田謙介 (2018年9月), アトリビュートの補償・非補償関係を統合した認知診断モデルの開発, 日本テスト学会第16回大会, 東京家政大学,

藤田和也・岡田謙介 (2018年11月), 不確実状況における累積プロスペクト理論による主観確率の推定, 日本計算機統計学会第32回シンポジウム, 滋賀大学,

分寺杏介・岡田謙介 (2018年11月), Thurstonian IRTにおけるパラメータの不変性について, 日本計算機統計学会第32回シンポジウム, 滋賀大学.

Okada, K. (2018, December). Bayesian mixture item response modeling in the presence of noncompliers. 11th International Conference of the ERCIM (European Research Consortium for Informatics and Mathematics) Working Group on Computational and Methodological Statistics (CMStatistics 2018).

University of Pisa.

山口一夫・岡田謙介 (2019年2月), DINA型認知診断モデルにおける変分ベイズ推定について, 北海道大学情報基盤センター萌芽型共同研究集会「大規模・複雑化データに対する解析手法の多面的研究」北海道大学.

分寺杏介・岡田謙介 (2019年2月), 反応時間を用いて多肢強制選択式尺度を分析する項目反応モデル, 統計数理研究所研究集会「複雑データ解析法に関する研究会」統計数理研究所.

北條大樹・岡田謙介 (2019年2月), 係留ビネットにより反応スタイルを測定する多次元部分得点項目反応モデル, 統計数理研究所研究集会「複雑データ解析法に関する研究会」統計数理研究所.

藤田和也・岡田謙介 (2019年2月), 意思決定課題における適応的な刺激選択法について, 統計数理研究所研究集会「複雑データ解析法に関する研究会」統計数理研究所.

岡田謙介 (2019年3月), 再現性問題における統計学的論点と, その解決に向けて, 日本発達心理学会・他学会等共催シンポジウム「今そこにある危機: 再現可能性問題をめぐる現状と展望」早稲田大学.

## 臨床心理学コース

下山晴彦 (教授)

### 〈著書〉

下山晴彦 (監修), 『公認心理師のための「発達障害」講義』, 北大路書房, 2018, pp.210.

下山晴彦 (監修), 『〈前向きな諦め〉を促すインターネット認知行動療法: 日本文化にそくした心理支援のために』 (下山晴彦 (監修), 菅沼慎一郎 (著者)), ミネルヴァ書房, 2018

下山晴彦 (編訳), 『臨床心理学入門』, 東京大学出版会, 2019, pp.226. (Lewelyn, S & Aafjes-Van Doorn, K 2017 Clinical Psychology: A Very Short Introduction Oxford University Press.)

下山晴彦 (編著), 『公認心理師のための簡易型認知行動療法入門』 (大野裕氏との共編), 精神療法, 45(1), 2019, pp.7-89.

下山晴彦 (2019) 臨床心理学の技能 in 下山晴彦 (編集主幹) 公認心理師技法ガイド: 臨床の場で役立つ実践のすべて 文光堂 pp.2-5.

下山晴彦 (2019) ケースマネジメント in 下山晴彦 (編集主幹) 公認心理師技法ガイド: 臨床の場で役立つ実践のすべて 文光堂 pp.53-55.

下山晴彦 (2019) ケースカンファレンス in 下山晴彦 (編集主幹) 公認心理師技法ガイド: 臨床の場で役立つ実践のすべて 文光堂 pp.56-58.

下山晴彦 (2019) 初回面接 in 下山晴彦 (編集主幹) 公認心理師技法ガイド: 臨床の場で役立つ実践のすべて 文光堂 pp.82-85.

### 〈雑誌論文〉

Haruhiko Shimoyama, The efficacy of a web-based screening and brief intervention for reducing alcohol consumption among Japanese problem drinkers: Protocol of a single-blind randomized controlled trial. (Hamamura, T., Suganuma, S., Takano, A., Matsumoto, T.との共著.) JMIR Research Protocol, 7 (5), e10650. doi:10.2196/10650, 2018

Haruhiko Shimoyama, Increased sensitivity to sad faces in depressive symptomatology: A longitudinal study, (Nakamura, A., Takizawa, R.との共著), Journal of Affective Disorders, 240, 99-104, 2018

Haruhiko Shimoyama, An Embodied Conversational Agent for Unguided Internet-Based Cognitive Behavior Therapy in Preventative Mental Health: Feasibility and Acceptability Pilot Trial, (Suganuma, S., Sakamoto, D.との共著): JMIR mental health 5(3) e10454, 2018

下山晴彦 (共著), 『レジリエンスの自己認識を目的とした予防的介入アプリケーションの検討ーレジリエンスの「低い」人に効果的なサポートを目指して』 (平野真理・小倉加奈子・能登眸との共著), 臨床心理学, 18(6), 2018, pp.731-742.

下山晴彦 (共著), 『日本語学校に在籍する中国人留学生がiCBT (MoodGYM) を利用する際の意思決定プロセス』 (安婷婷・菅沼慎一郎との共著), 心理臨床学研究, 36(3), 2018, pp.299-310.

下山晴彦 (共著), 『スマートフォンアプリを用いた呼吸法の精神的健康への効果』 (中野美奈・菅沼慎一郎との共著), 心理臨床学研究, 36(4), 2018, 431-440.

下山晴彦 (共著), 『精神的健康における適応的諦観の意義と機能』 (菅沼慎一郎・中野美奈との共著), 心理学研究, 89(3), 2018, pp. 229-239.

下山晴彦 (共著), 『日本語版感覚ゲート尺度 (SGI) の信頼性と妥当性の検討』 (信吉真璃奈・金生由紀子・松田なつみ・河野稔明・野中舞子・藤尾未由希との共著) 心理学研究, 89, 2018, pp.507-513.

下山晴彦 (共著), 『強迫と認知行動療法』 (野中舞

- 子との共著), 精神科, 32(6), 2018, 544-548.
- 下山晴彦 (単著), 『公認心理師と認知行動療法の活用』精神療法, 45(1), 2019, pp.7-12.
- 下山晴彦 (単著), 『外来診療における公認心理師と精神科医の連携と協働』精神療法, 44(4), 2018, pp.72-73
- 下山晴彦 (共著), 『対人援助場面における相互行為のエスノメソドロジー研究概観』(小原聡一郎・中村杏奈・浦野由平・萩原萌・恩田豪との共著) 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 41, 2018, pp.19-25.
- 下山晴彦 (共著), 『発達障害者の自己理解に関する概観と芸術活動の可能性』(石川千春・一柳貴博・信吉真璃奈・冷牟田将吾との共著) 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 42, 2019, pp.39-46.
- 下山晴彦 (共著), 『レジリエンス育成プログラムの概観と今後の展望——児童・青年期を中心として——』(井上薫・片岡優介との共著) 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 42, 2019, pp.47-54.
- 下山晴彦 (共著), 『うつ病患者に対するICTを用いた心理支援の現状と今後の展望』(三枝弘幸・中村杏奈・シュレンベル レナ・内村慶土との共著), 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 42, 2019, pp.1-6.
- 下山晴彦 (共著), 『睡眠がメンタルヘルスに与える影響に関する研究動向と今後の展望——交替制勤務者に着目して——』(佐野真莉奈・北原祐理・河合啓太郎との共著), 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 42, 2019, pp.23-30.
- 下山晴彦 (共著), 『慢性的虐待のリスクを抱え孤立状態にある母親への支援の現状と課題』(高堰仁美・浜村俊傑・李智慧との共著), 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 42, 2019, pp.31-38.
- 下山晴彦 (共著), 『感情労働者の早期離職に関する研究の概観——離職要因と支援可能性に着目して——』(谷真美華・大井葉月との共著), 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 42, 2019, pp.7-14
- 下山晴彦 (共著), 『児童虐待に対する学校現場の支援の現状と課題』(柳百合子・遠藤凌河・鈴木拓朗との共著), 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 42, 2019, pp.15-22

## 高橋美保 (教授)

### 〈著書〉

- 高橋美保 (監訳)・石津和子 (翻訳), 『キャリアカウンセリング: 積極的関わりによる新たな展開』, 誠信書房, 2018, (Norman E. Amundson, Active Engagement—the being and doing of career counselling. Canada: Ergon Communications.)
- 高橋美保 (分担執筆), 「失業者に対する心理的援助プログラムの開発」, 日本コミュニティ心理学会研究委員会 (編著), 『ワードマップコミュニティ心理学』, 新曜社, 2019, pp.262-268.
- 高橋美保 (分担執筆), 「チームワーク」, 下山晴彦 (編集主幹), 『公認心理師ガイド 臨床の場で役立つ実践のすべて』, 文光堂, 2019, pp.43-47.
- 高橋美保 (分担執筆), リーダーシップ, 下山晴彦 (編集主幹), 『公認心理師ガイド 臨床の場で役立つ実践のすべて』, 文光堂, 2019, pp.48-52.
- 高橋美保 (分担執筆), 内観療法, 下山晴彦 (編集主幹), 『公認心理師ガイド 臨床の場で役立つ実践のすべて』, 文光堂, 2019, pp.341-344.

### 〈雑誌論文〉

- 高橋美保 (共著), 「ライフキャリア・レジリエンスプログラムの開発と効果評価——障害者の就職と定着を目指して——」, (鈴木悠平氏との共著), 『教育心理学研究』, 61, 2019, pp.26-39.
- M. Takahashi (Joint authorship), A cooperative support model for cancer therapy and employment balance: from focus-group interviews of health and business professionals, (joint work with C. Uetake, N. Nakayama, A. Eura, N. Yamaguchi, Y. Kameda, G. Muto, M. Endo, K. Kawamata, T. Fujii, H. Oka and K. Matsudaira), Industrial Health, 57, 2019, pp.40-51.
- 高橋美保 (共著), 「特集グローバル化と労働安全衛生: 外国人労働者のメンタルヘルスと心理支援——専門性の違いに注目して——」, (李健實氏との共著), 『保健の科学』, 61, 2019, 242-246.
- 高橋美保 (共著), 「高校生に対するライフキャリア教育のプログラム開発とその効果評価: ライフキャリア・レジリエンスを高めるために」, (石津和子氏・森田慎一郎氏・石橋太加志氏・安田節之氏との共著), 『東京大学教育学研究科紀要』, 58, 2019, pp.595-604.
- 高橋美保 (単著), 「チームワークの心理学」, 『小児の精神と神経』, 58, 2018, pp.178-187.
- 高橋美保 (単著), 「内観療法が臨床心理学にもたら

すもの」,『内観研究』, 24, 2018, pp.29-35.

高橋美保 (共著), 「がんの治療と仕事の両立支援に携わる企業担当者の体験—テキストマイニングを用いて—」, (中山奈緒子氏・植竹智香氏・川又華代氏・藤井朋子氏・岡敬之氏・松平浩氏との共著), 『東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要』, 42, 2019, pp.70-77.

高橋美保 (共著), 「臨床心理実践者に対するマインドフルネス実践の意義—ワークショップの体験プロセスに着目して—」, 『東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要』, (稲吉玲美氏・勝又結菜氏・馬場絢子氏・本田由美氏との共著), 42, 2019, pp.78-87.

高橋美保 (共著), 「ワーキングペアレンツの怒りに関する探索的検討—ワークライフバランスにまつわる怒りとその影響」, 『東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要』, (中山莉子氏・勝又結菜氏・亀田優依氏・北中眞貴氏・江浦瑛子氏・島津明人氏との共著) 42, 2019, pp.88-96.

#### 〈学会発表〉

A. Shimazu, M. Sakka, E. Obikane, M. Arima, S. Doi, T. Fujiwara, T. Hasegawa, Y. Kato, N. Iwata, N. Kawakami, K. Matsudaira, K. Shimada, M. Takahashi, M. Takahashi, M. Tokita, H. Uchiyama, I. Watai (Oral) Effects of a work-family intervention program: A pretest-posttest study, International commission on Occupational Health, 2018.

中山奈緒子・高橋美保・松平浩 (ポスター発表), 慢性疼痛の集学的治療プロセスと, 治療上の困難体験に関する質的研究—医師へのインタビュー調査から, 第48回日本慢性疼痛学会 (ポスター発表), 2018.

#### 〈講演・講座〉

高橋美保 (講演者), 第119回日本小児精神神経学会 “チームワークの心理学”, 2018.

高橋美保 (講演者), 平成30年度市民後見人養成講座“対人援助の基礎”, 2018.

### 能 智 正 博 (教授)

#### 〈著書〉

能智正博 (編集代表) 『質的心理学辞典』 (香川秀太・川島大輔・サトウタツヤ・柴山真琴・鈴木聡志・藤江康彦氏との共編) 新曜社, 2018, 総頁数419.  
能智正博 (分担執筆), 「アブダクション」 「演繹」 「帰納」 「グラウンデッドセオリー」 「研究アプローチ」

「データ」 「自然主義的探求」 「ナラティブ分析」 「反証可能性」 「方法」 「方法論」 「本当らしさ」 「フッサール」 「バンバーク」, 能智正博他 (編) 『質的心理学辞典』, 新曜社

#### 〈学術論文〉

Otake, M., Abe, M., Nochi, M., & Shimizu, E. (共著) “Estimation of personalized value through the analysis of conversational data assisted by co-imagination method”. The 2018 AAAI Spring Symposium Series, Reviewed, 2018, 267-268.

#### 〈学会発表／シンポジウム〉

能智正博・園部愛子・片山皓絵・眞柄翔太・沖野昇平・風間菜緒・広津侑実子 (ポスター発表). 先天性盲児はいかにして見えない自分に気づくのか——「見て」という発話行為の変遷をたどって 日本心理学会第82回大会, 仙台, 2018

Ihara, Y., Ohka, M., Nakamura, A., Ueda, M., Nochi, M., & Takizawa, R. (学会発表・ポスター) “Occupational stressors and barriers to help-seeking for mental health in Japanese young hospital doctors: an exploratory study”. 13th Conference of the European Academy of Occupational Health Psychology, Lisbon, 2018

Nochi, M. (学会シンポジウム・企画), van Loon, E. J. P., Kitamura, A., Hirotsu, H., & Yokoyama, K. Encounter and dialogue with otherness and alterity outside and inside the self: Findings from qualitative research in clinical psychology. 10th international conference on the dialogical self, Braga, Portugal.

van Loon, R., Zomer, P., Raggatt, P., Nochi, M. (学会シンポジウム・話題提供), Buster, A. “Developing your position-repertoire: New perspectives and practices.” 10th International Conference on the Dialogical Self, Braga, 2018

高田由利子・尾上明代・藤木晃宏・能智正博 (学会シンポジウム・指定討論) 「芸術×セラピー——臨床における創造的表現のプロセスについて——」 日本認知科学会「芸術と情動」研究分科会公開イベント, 東京, 2018

後藤ひとみ・斉藤ふくみ・鈴木裕子・香田由美・竹鼻ゆかり・能智正博 (学会シンポジウム・話題提供) 「養護教諭の専門性を支える理論構築にむけて養護実践研究のアプローチ」 日本学校保健学会第65回学術大会, 大分, 2018

浦田悠・山本美智代・金馬国晴・横山草介・川島大輔・能智正博 (学会シンポジウム・指定討論) 「質

的心理学と意味, 質的心理学の意味」日本質的心理学会第15回大会, 名護, 2018

植田嘉好子・田中彰吾・能智正博 (学会シンポジウム・話題提供)・西研「ナラティブを通じた他者理解——聞き手の視点と感性に注目しながら——」日本質的心理学会第15回大会, 名護, 2018

Nochi, M. (国際シンポジウム・話題提供) "Recovery as restoration of "shutai-sei": From a viewpoint of professionals involved in brain injury rehabilitation." International Symposium on Adolescent Health and Personalized Values. The University of Tokyo, 2018.

能智正博 (学会シンポジウム・企画・司会)・保坂裕子・やまだようこ・無藤隆・抱井尚子「質的研究論文評価の視点と課題—アメリカ心理学会の基準を素材にして—」日本発達心理学会第30回大会2019

#### 〈講演・講座〉

能智正博 (講師)「メンタルヘルス研究を質的にはじめてみたい方へ〜実はけっこう難しいインタビューの技法」日本学校メンタルヘルス学会第22回大会ワークショップ, 東京, 2018

能智正博 (講師)「これからの心理職に求められる素養〜科学者〜実践家モデルの新たな展開を目指して〜」文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」東京大学, 職域・地域架橋型「価値に基づく支援者育成」キックオフシンポジウム, 2019

能智正博 (講師)「質的研究法入門」日本臨床心理士会臨床心理センター講座, 2019

#### 〈その他〉

能智正博「対話において構築される「主体性」—失語症者に対する会話パートナーの援助様式に着目して—」新学術領域研究「脳・生活・人生からの統合的理解にもとづく思春期からの主的価値発展学」NEWS LETTER vol. 2, 18, 2018

能智正博 書評『ナラティブ・セラピー・クラシックス』(マイケル・ホワイト著)『精神療法』44, 744-745, 2018

能智正博「型としての演武会」『赤門合気道』, 59, 40-41, 2018

#### 身体教育学コース

山本義春 (教授)

#### 〈論文〉

Fukuda, M., Y. Isobe-Sasaki, R. Sato, T. Miura, M. Mizuno, M. Ono, K. Kiyono, Y. Yamamoto, J. Hayano, and

N. Ohte. The angiotensin II type 1 receptor blocker azilsartan can overwhelm the sympathetic nerve activation stimulated by coadministration of calcium channel blockers. *Journal of the Renin-Angiotensin-Aldosterone System* 17: 1470320319839525: 1-6, 2019.

Wendt, H., P. Abry, K. Kiyono, J. Hayano, E. Watanabe, and Y. Yamamoto. Wavelet p-leader non Gaussian multiscale expansions for heart rate variability analysis in congestive heart failure patients. *IEEE Transaction on Biomedical Engineering* 66: 80-88, 2019.

Ogino, K., H. Takahashi, T. Nakamura, J. Kim, H. Kikuchi, T. Nakahachi, K. Ebishima, K. Yoshiuchi, T. Ando, T. Sumiyoshi, A. Stickley, Y. Yamamoto and Y. Kamio. Negatively skewed locomotor activity is related to autistic traits and behavioral problems in typically developing children and those with autism spectrum disorders. *Frontiers in Human Neuroscience* 12: 518-1-5, 2018.

Fujimoto, C., N. Egami, T. Kawahara, Y. Uemura, Y. Yamamoto, T. Yamasoba, and S. Iwasaki. Noisy galvanic vestibular stimulation Sustainably improves posture in bilateral vestibulopathy. *Frontiers in Neurology* 9: 900-1-9, 2018.

Valenza, G., H. Wendt, K. Kiyono, J. Hayano, E. Watanabe, Y. Yamamoto, P. Abry, and R. Barbieri. Mortality prediction in severe congestive heart failure patients with multifractal point-process modeling of heartbeat dynamics. *IEEE Transaction on Biomedical Engineering* 65: 2345-2354, 2018.

Kishi, A., I. Yamaguchi, F. Togo, and Y. Yamamoto. Markov modeling of sleep stage transitions and ultradian REM sleep rhythm. *Physiological Measurements* 39: 084005-1-9, 2018.

Takahashi, H., T. Nakamura, J. Kim, H. Kikuchi, T. Nakahachi, M. Ishitobi, K. Ebishima, K. Yoshiuchi, T. Ando, A. Stickley, Y. Yamamoto, and Y. Kamio. Acoustic hyper-reactivity and negatively skewed locomotor activity in children with autism spectrum disorders: an exploratory study. *Frontiers in Psychiatry* 9: 355-1-7, 2018.

Iwasaki, S., C. Fujimoto, N. Egami, M. Kinoshita, F. Togo, Y. Yamamoto, and T. Yamasoba. Noisy vestibular stimulation increases gait speed in normal and in bilateral vestibulopathy. *Brain Stimulation* 11: 709-715, 2018.

Hayano, J., K. Ohashi, Y. Yoshida, E. Yuda, T. Nakamura, K. Kiyono, and Y. Yamamoto. Increase in random component of heart rate variability coinciding with developmental and degenerative stages of life. *Physiological Measurements* 39: 054004-1-9, 2018.

Yana, K., Y. Yamamoto, and T. Nomura. Advanced methods for biosignal interpretation, characterization and their applications. *Methods of Information in Medicine* 51: 120-121, 2018.

黒宮寛之, 日高一郎, 山本義春, トピックモデルによる研究型アクティブラーニングの分析, *日本教育工学会論文誌*, 42: 323-330, 2019.

志村広子, 中村亨, 山口郁博, 山本義春, 心理・行動の強縦断データにみられる精神疾患の発症・病態遷移兆候信号と超早期介入への応用可能性, *計測と制御*, 58: 102-108, 2019.

中村 亨, 山本義春, ヘルスケアIoTセンシングと健康リスクの予測と制御, *計測と制御*, 58: 82-83, 2019.

#### 〈招待講演〉

Yamamoto, Y. Future of Healthcare IoT: Challenge of Healthcare IoT Consortium (panel discussion). *IoT International Symposium 2019 by Smart IoT Acceleration Forum of Japan*, Tokyo, Japan (March, 2019).

山本義春, IoTが拓くヘルスケアの近未来～慢性疼痛管理の可能性～, 第11回日本運動器疼痛学会・特別講演, 滋賀, 2018年11月.

山本義春, IoTが拓くヘルスケアの近未来～ヘルスケアIoTコンソーシアムの挑戦～, 第26回日本産業ストレス学会・シンポジウム「産業ストレス分野におけるIoTの活用」, 東京, 2018年11月.

#### 多 賀 徹太郎 (教授)

##### 〈雑誌論文〉

G. Taga, H. Watanabe, F. Homae: Developmental changes in cortical sensory processing during wakefulness and sleep. *Neuroimage* 178, 519-530, 2018

H. Gima, H. Kihara, H. Watanabe, H. Nakano, J. Nakano, Y. Konishi, T. Nakamura, G. Taga: Early motor signs of autism spectrum disorder in the spontaneous position and movement of the head. *Experimental Brain Research* 236, 1139-1148, 2018

多賀徹太郎: ヒトの発達における自発性と主体性「発達」ミネルヴァ書房, 155-39, 35-41, 2018

#### 〈その他〉

D. Tsuzuki, G. Taga, H. Watanabe, F. Homae: Statistical shape analysis of developmental changes in the corpus callosum during infancy. *OHBM*, Singapore, 6.17-21, 2018

Y. Shinya, H. Watanabe, G. Taga: Spontaneous Movements and Autonomic Nervous Activity during Crying in 3-month-old Infants. *International Congress of Infant Studies*, 6. 30-7. 30, 2018

T. Matsuda, F. Homae, H. Watanabe, G. Taga, and F. Komaki

Statistical verification of the common oscillatory behaviors in oxy-Hb and deoxy-Hb time series, *fNIRS2018*, Tokyo, Oct 5-8, 2018

G. Taga, H. Watanabe, R. Saji, and F. Homae: Transition of phase synchrony of fNIRS signals depending on sleep states in infants, *fNIRS2018*, Tokyo, Oct 5-8, 2018

多賀徹太郎・渡辺はま: 乳児の自発運動の個性, *日本赤ちゃん学会第18回学術集会*, 東京大学, 東京, 2018. 7.7-8

多賀徹太郎・渡辺はま・佐治量哉・保前文高: 睡眠時の乳児における脳組織酸素化動態の時空間ダイナミクス, *日本光脳機能イメージング学会第21回学術集会*, 2018.7.14

多賀徹太郎: 脳の初期発達における自発性と共生, 玉川大学脳科学研究所「社会神経科学研究拠点」主催シンポジウム「神経科学的アプローチによる発達研究の最前線」2019.3.8 (招待)

#### 野 崎 大 地 (教授)

##### 〈雑誌論文〉

Hayashi T, Kato Y, Nozaki D. Divisively normalized integration of multisensory error information develops motor memories specific to vision and proprioception. *BioRxiv*, 2019 <<https://www.biorxiv.org/content/10.1101/561332v1>>

Takagi A, Hirashima M, Nozaki D. Individuals physically interacting in a group rapidly coordinate their movement by estimating the collective goal. *eLife* 8:e41328, 2019. <https://doi.org/10.7554/eLife.41328.001>

Hagio S, Nozaki D. Motor learning of arm reaching movement in redundant musculoskeletal system. *JSME Symposium: Sports engineering and Human Dynamics*, 2018. (査読なし)

Nozaki D, Hagio S. Exploring efficient rowing movement.

JSME Symposium: Sports engineering and Human Dynamics, 2018. (査読なし)

Takarada Y, Nozaki D. Motivational goal-priming with or without awareness produces faster and stronger force exertion. *Scientific Reports* 8: 10135, 2018.

#### 〈国内学会〉

武見充晃, 野崎大地. Variable brain states practice improves motor memory retention. *BrainMind* 2019 ルスツリゾート, 北海道 (2019年1月)

野崎大地, 萩生翔大, 効率的なローイング動作を探る.

スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス2018, 京都テルサ, 京都 (2018年11月)

萩生翔大, 野崎大地. 腕到達運動学習時における冗長な筋骨格系の制御

スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス2018, 京都テルサ, 京都 (2018年11月)

小林稔季, 武見充晃, 野崎大地. 熟達した運動スキル遂行時における動作ミスの予兆. *Motor Control研究会*, 上智大学 (2018年8月)

武見充晃, Hartwig R Siebner, 野崎大地. 運動記憶の安定性を高める多様な脳状態下での運動学習  
第12回Motor Control研究会, 上智大学, 東京 (2018年8月)

小笠原東洋, 武見充晃, 野崎大地. 適度な標的位置多様性は到達運動記憶の強い定着を促進する.

第12回Motor Control研究会, 上智大学, 東京 (2018年8月)

萩生翔大, 野崎大地. 単一骨格筋ダイナミクスの変化に対する筋活動の修正パターンを明らかにする  
第12回Motor Control研究会, 上智大学, 東京 (2018年8月)

佐々木彰一, 野崎大地. 運動記憶の想起は時間経過に依存した忘却を食い止める

第12回Motor Control研究会, 上智大学, 東京 (2018年8月)

#### 〈国際学会〉

Kobayashi T, Takemi M, Nozaki D. Looking for a Sign of Failure in Actions: Reaching Errors Triggered by Slowing Down of Movement and Specific Brain Activity in Preceding Trials.

Workshop of the Mechanism of Brain and Mind, Hokkaido, Japan (January 2019)

Hagio S, Nozaki D. Muscle-based perturbation using electrical stimulation revealed sensorimotor coordination in multiple muscles during motor adaptation.

49th Annual Meeting of the Society for Neuroscience, San Diego, USA (Nov 3rd-7th 2018).

Azat A, Hagio S, Nozaki D. Sensorimotor Adaptation to Alteration in Postural Dynamics Induced by A Novel Electrical Muscle Stimulation System.

49th Annual Meeting of the Society for Neuroscience, San Diego, USA (Nov 3rd-7th 2018)

Takemi M, Nozaki D. Motor practice under transcranially induced variable brain states improves the retention of motor memories.

49th Annual Meeting of the Society for Neuroscience, San Diego, USA (Nov 3rd-7th 2018).

Ogasawara T, Takemi M, Nozaki D. Variety of target position in force-field reaching task affects retention of the motor skill.

49th Annual Meeting of the Society for Neuroscience, San Diego, USA (Nov 3rd-7th 2018).

Kobayashi T, Takemi M, Nozaki D. Looking for a sign of failures: Reaching error triggered by slowing down of movement in the preceding trials.

Society for Neuroscience, San Diego, USA (Nov 3rd-7th 2018)

Kobayashi T, Takemi M, Nozaki D. Looking for a sign of failures: Reaching error triggered by slowing down of movement in the preceding trials.

49th Annual Meeting of the Society for Neuroscience, San Diego, USA (Nov 3rd-7th 2018).

Hagio S, Kouzaki M, Nozaki D. Inter-limb coordination of redundant muscle activation was modularly regulated in shared bimanual reaching tasks.

XXII congress of International Society of Electrophysiology and Kinesiology, Dublin, Ireland (Jun 30th-Jul 2nd 2018)

Takemi M, Ogasawara T, Nozaki D. Motor learning under artificially elicited multiple brain states fosters the stability of motor memories.

Carolina Neurostimulation Conference 2018, Chapel Hill, USA (May 21st-23rd 2018).

Takemi M, Ogasawara T, Nozaki D. Motor practice under variable cortical activities fosters the stability of motor memories

28th Annual Meeting of the Society for the Neural



Control of Movement, Santa Fe, USA (May 1st-4th 2018).

Hayashi T, Kato T, Nozaki D. Divisively normalized integration of visual and proprioceptive motor memories for motor adaptation.

Neural Control of Movements, Santa Fe, USA (Apr 30th-May 4th 2018)

東郷史治 (准教授)

〈著書〉

Togo, F., A. Kishi, and B. H. Natelson (共著), 「Chronic Fatigue Syndrome and Fibromyalgia」, 『Handbook of Sleep Disorders in Medical Conditions』, J. Savard and M-C Ouellet編著, Elsevier Inc./Academic Press, pp.325-343, 2019.

〈雑誌論文〉

Kishi, A., I. Yamaguchi, F. Togo, Y. Yamamoto. (共著) 「Markov modeling of sleep stage transitions and ultradian REM sleep rhythm」, 『Physiological Measurement』, 39(8), pp.084005, 2018.

山口智史, 西田明日香, 小川佐代子, 東郷史治, 佐々木司. (共著) 「教員が生徒の不安・抑うつ症状に気づく力を調査した研究の系統的レビュー」, 『不安障研究』, 10, pp.45-53, 2018.

Park, H., F. Togo, M. Miyashita. (共著) 「Computational Tools and Techniques for Early Diagnosis and Screening of Geriatric Diseases」, 『Computational and Mathematical Methods in Medicine』, pp.2018: 7830584, 2018.

Kim, J., D. Marcusson-Clavertz, F. Togo, H. Park. (共著) 「A practical guide to analyzing time-varying association between physical activity and affect using multilevel modeling」, 『Computational and Mathematical Methods in Medicine』, pp.2018: 8652034, 2018.

Iwasaki, S., C. Fujimoto, N. Egami, M. Kinoshita, F. Togo, Y. Yamamoto, T. Yamasoba. (共著) 「Noisy vestibular stimulation increases gait speed in normals and in bilateral vestibulopathy」, 『Brain Stimulation』, 11, pp.709-715, 2018.

Yamaguchi, I., A. Kishi, F. Togo, T. Nakamura, Y. Yamamoto. (共著) 「A robust method with high time resolution for estimating the cortico-thalamo-cortical loop strength and the delay when using a scalp electroencephalography applied to the wake-sleep transition」, 『Methods of Information in Medicine』,

57, pp.122-128, 2018.

森田賢治 (准教授)

〈雑誌論文〉

Ryota Nomura, Ying-Zong Liang, Kenji Morita, Kantaro Fujiwara, & Tohru Ikeguchi. Threshold-varying integrate-and-fire model reproduces distributions of spontaneous blink intervals. *PLoS One* 13(10): e0206528. doi: 10.1371/journal.pone.0206528. (2018)

Kenji Morita & Yasuo Kawaguchi. A Dual Role Hypothesis of the Cortico-Basal-Ganglia Pathways: Opponency and Temporal Difference Through Dopamine and Adenosine. *Front Neural Circuits* 12: 111. doi: 10.3389/fncir.2018.00111. (2019)

岸哲史 (助教)

〈著書〉

Togo, F., A. Kishi, B. H. Natelson. Chronic fatigue syndrome and fibromyalgia. In: *Handbook of Sleep Disorders in Medical Conditions*, Savard, J. and M-C. Ouellet, editors. Academic Press, pp.325-343, 2019.

〈雑誌論文〉

Kishi, A., I. Yamaguchi, F. Togo, Y. Yamamoto. Markov modeling of sleep stage transitions and ultradian REM sleep rhythm. *Physiological Measurement*, 39: 084005-1-9, 2018.

Yamaguchi, I., A. Kishi, F. Togo, T. Nakamura, Y. Yamamoto. A robust method with high time resolution for estimating the cortico-thalamo-cortical loop strength and the delay when using a scalp electroencephalography applied to the wake-sleep transition. *Methods of Information in Medicine*, 57: 122-128, 2018.

〈招待講演・シンポジウム〉

Kishi, A. Dynamics of sleep stage transitions: Toward understanding the basic physiology and clinical aspects of sleep in humans. *International Congress on Biological and Medical Sciences 2018*. Nigde Ömer Halisdemir University, Nigde, Turkey (October, 2018).

岸哲史, トレーニング効果を引き出す睡眠の役割, シンポジウム「低酸素トレーニングのすべて」・パネルディスカッション「低酸素トレーニングの効果について」, 早稲田大学国際会議場井深大記念ホール, 東京 (2019年3月).

## 教職開発コース

秋田 喜代美 (教授)

(著書)

秋田喜代美 (著) 『リーダーは保育をどうつくってきたか：事例でみるリーダーシップ研究』フレーベル館, pp79, 2018

秋田喜代美・野口隆子 (編) 「乳幼児の豊かな言葉が育つための領域」『保育内容 言葉』光生館, pp1-17, 2018

カンチェーミ・ジュンコ・秋田喜代美 (編) 『子ども達からの贈りもの：レジャ・エミリアの哲学に基づく保育実践』萌文書林, pp205, 2018

秋田喜代美・馬場耕一郎著「リーダーシップ」pp32-53, 秋田喜代美・馬場耕一郎 (監修) 秋田喜代美・那須信樹 (編) 『マネジメント』中央法規, pp139, 2018

秋田喜代美・福井大学教育学部附属義務教育学校研究会 (編) 『福井発プロジェクト型学習：未来を創る子ども達』東洋館書店, pp244, 2018

秋田喜代美 (編集代表) 西山薫・菱田隆昭 (編) 『今に生きる保育者論第4版』みらい, pp215, 2019

秋田喜代美「職員の研修等および研修の実施体制等について」全国保育士会 (編) 『改定保育所保育指針解説を読む』全国社会福祉協議会, p287-288, 2018

秋田喜代美「子どもたちの豊かな経験を保障するには環境に多様性が必要」『森と自然を活用した保育・幼児教育ガイドブック』風鳴舎, p14-15, 2018

秋田喜代美「保育学のこれから」無藤隆・大豆生田啓友・松永静子 (編) 『教育・保育の過去・現在・未来を結ぶ路院展：汐見稔幸とその周辺』エイデル出版, p18-25, 2019

秋田喜代美「発達心理学からみた学びの暦」岡野昇・佐藤学 (編) 『小学校体育12か月の学びのデザイン：学びの暦の活用と展開』大修館書店, p92-93, 2019

(翻訳書)

経済協力開発機構 (OECD) (編著) ベネッセ教育総合研究所 (企画制作) 無藤隆・秋田喜代美 (監訳・解説) 荒牧美佐子・都村聞人・木村治生・高岡純子・真田美恵子・持田聖子 (訳) 『社会情動的スキル：学びに向かう力』明石書店, pp224, 秋田喜代美「あとがき」p217-220, 2018

キャロル・アーチャー, イラム・シラージ (著), 秋田喜代美 (監訳), 淀川裕美・辻谷真知子・宮本

雄太 (訳) 『体を動かす遊びのための環境の質』評価スケール—保育における乳幼児の運動発達を支えるために』明石書店, pp116, 秋田喜代美「解説 本著を読んでいただくにあたって：体を動かす遊びのための環境の社会文化的文脈」p98-102, 2018

森敏昭・大島純・秋田喜代美・白水始 (監訳) 『学習科学ハンドブック, 第二版, 第1巻：基礎／方法論』北大路書房, pp238, 2018

(学術論文)

秋田喜代美「なぜ今あらためてレジャ・エミリアか」雑誌発達, 156, p2-7, 2018

秋田喜代美「探究的学びを支援するために：海外の研究から見る5つの提言」日本教材文化財団研究紀要, 48, p9-14, 2019

秋田喜代美・辻谷真知子・石田佳織・宮田まり子・宮本雄太「園庭環境に関する研究の展望」東京大学大学院教育学研究科紀要, 58, 495-533, 2019

Mikouchi, A., Akita, K. & Komura, S. 'A critical review on project-based learning in Japanese secondary school.' 東京大学大学院教育学研究科紀要, 58, 373-385, 2019

野澤祥子・淀川裕美・佐川早季子・天野美和子・宮田まり子・秋田喜代美「保育におけるミドルリーダーの役割に関する研究都と展望」東京大学大学院教育学研究科紀要, 58, 387-416, 2019

一前春子・秋田喜代美・天野春子「保幼小連携の取り組みの効果に対する保護者の視点—保護者は連携をどのような取り組みとらえているのか」国際幼児教育学研究, 25, 93-106, 2018

中坪史典・秋田喜代美・砂上史子・高木恭子・辻谷真知子・箕輪潤子「日米の保育者は日本の幼稚園Webサイトをどう見るのか?—「子どものつぶやき」をめぐる語りに潜在する社会・文化的習慣や認識—」日本子ども学会 チャイルドサイエンス, 16, 47-51, 2018

箕輪潤子・秋田喜代美・中坪史典・砂上史子・高木恭子・辻谷真知子「幼稚園はお便りを通して何をどのように保護者に伝えているのか：運動会のお便りの分析を通して」武蔵野教育論集5, 201-206, 2018

(一般論文)

秋田喜代美, 2018「新幼稚園教育要領の実践について：さらなる質の向上を目指して」私幼時報, 408号, 4-5.

秋田喜代美, 2018「想像力・創造力を育む遊び」保健の科学, 60(5), 292-295.

- 秋田喜代美, 2018「私の授業論：どの子ども大きく見える国語授業」授業UD研究, 5, 39-46.
- 秋田喜代美, 2018「新たな時代の読書のあり方を問う」学校図書館, 814, 45-48.
- 秋田喜代美, 2018「絵本が育む豊かな体験」チャイルドヘルス, 21(8), 592-594.
- 秋田喜代美, 2018「幼児における博物館の利用：ワクワクする遊びと学びの場への期待」博物館研究, 53(9), 4-5.
- 秋田喜代美, 2018「保育・教育の質と子どもの発達」東京都公立保育園研究会広報, 第245号, 38-54.
- 秋田喜代美・美育文化ポケット編集委員2019「新たな一歩 美育文化20号刊行記念対談」20, 10-13, 2019.1.
- 秋田喜代美, 2019「提言これからの園の形」保育ナビ, 10(1), 10-11
- 秋田喜代美, 2019「学校教育におけるプロジェクト学習の動向：深い学びを実現する学校創りのために」教育情報, 13.2-3
- 秋田喜代美, 2018「保育・教育の質向上のために」東社協保育部会通信, 379, 4-7
- 秋田喜代美・笹山雅司・鈴木康人・田澤幸喜・磯部頼子, 2018「遊びの大切さを保護者にいかに伝えるか」これからの幼児教育, 2018春号, 2-15
- 馬場正尊・秋田喜代美, 「地域再生のプロに学ぶ園を拠点とした幸せなまちづくり」保育ナビ10, (2) 4-9
- 〈事典項目〉
- 秋田喜代美「感受概念」「発達心理学」「保育学」2018, 能智正博他(編)『質的心理学辞典』新曜社
- 〈DVD企画作成〉
- 秋田喜代美(監修解説)(学) 亀ヶ谷学園宮前幼稚園『砂・土・水で遊ぶ子ども達：支える環境 モノ時間』(公財) 日本児童教育振興財団教育ビデオライブラリ, 2018
- 〈学会発表〉
- 〈国際学会〉
- 〈国際学会発表・海外講演〉
- 秋田喜代美, 2018.「学びあう学びのために 日本の授業研究の現在」台湾：新北市教育委員会, 2018.4.25
- 秋田喜代美, 2018.「新しい時代の幼児教育者 1 現在の日本の幼児教育改革動向」@新しい時代に幼児教育者 2 環境を通しての教育」台湾：台北市立教育大学, 2018.4.27
- 秋田喜代美, 2018.「コンピテンシーベースの探究学習：新学習指導要領の改訂のもとで（能力素養導向的探究学習）」台湾：淡江大学台北キャンパス, 2018.4.28
- Akita, K. 2018 'How an Experienced Teacher Designs his Classroom Based on the Philosophy of Schools as Learning Communities (SLC) : The principles of an SLC-inspired approach' 7th International Conference of School as Learning Community, China: Fujian State University. 2018.11.16
- Akita, K. 2018 'How can Schools Make Learning Community Sustainable ? Focusing on the Leadership of Collaborative Inquiry' Plenary session symposium WALS 2018 Beijing Normal University. 2018.11.23
- Akita, K. 2018 Discusstant Forum "Teaching research and leeson study : Models and experiences in China." WALS 2018 Beijing Normal University. 2018.11.24
- 秋田喜代美, 2019.「小学校における協働学習と授業研究」中国：上海市教育委員会上海市立愚園路第1小学校研究大会講演, 2019.3.8
- 秋田喜代美, 2019.「コンピテンシーベースの探究学習」中国：華東師範大学教育課程国際シンポジウム基調講演, 2019.3.9
- 秋田喜代美, 2019.「コンピテンシーの育成と教科書作成：小学校国語を例に」中国：華東師範大学教科書国際比較研究会パネリスト, 2019.3.9
- 秋田喜代美, 2019.「学びあう学びのために：日本の授業研究の現在」中国：上海市金蘋果学園金蘋果小学校講演会, 2019.3.10
- Akita, K., Tsujitani, M. Miyamoto, Y., Miyata, M. and Ishida, K, 2018 'Designing the guideline booklet for improve the quality of playground in Japan'. Paper presented at the self-organized symposium at the EECERA, Budapest, 29th August. Budapesti Műszaki és Gazdaságtudományi 2018. 8. 30th. E20.
- Nozawa, S., Yodogawa, Y., Akita, K., Takahashi, M. & Endo, T., 2018 'Parent -Teacher relationships in early childhood education and care in Japan : Form the parents' perspective'. Paper presented at the self-organized symposium at the EECERA, Budapest, 30th August. Budapesti Műszaki és Gazdaságtudományi 2018. 8. 30. F11.
- Ichizen, H., Akita, K., and Amano, M., 2018 'Transitions practices from the nursery and kindergarten teachers' points of view'. Poster presented at the self-organized symposium at the EECERA, Budapest, 30th August.

- Budapesti Műszaki és Gazdaságtudományi 2018.8.30. II 49.
- Yumi Yodoawa, Sachiko Nozawa, & Kiyomi Akita 2018 'The role and Challenge of ECEC advisors in Japan : as a cornerstone of improving ECEC quality in local municipalities'. Paper presented at the self-organized symposium at the EECERA, Budapest, 29th August. Budapesti Műszaki és Gazdaságtudományi B B25.
- Tsujitani, M. Akita, K., Ishida, K. Miyata, M. and Miyamoto, Y. 2018 'Japanese ECEC practices regarding playground rules and relation with values shared in each centers'. Paper presented at the self-organized symposium at the EECERA, Budapest, 31 th August. Budapesti Műszaki és Gazdaságtudományi G8.
- Yukari HOTTA, Kiyomi AKITA, Sachiko NOZAWA, Tao Cheng, Osamu TAKAHASHI, 2019 'Emergent Processes in the Drawing Activities of Young Children Using Digital Tools: Focusing on How Drawing Activity Patterns Change When Combining Different Digital Tools' ICSEI 2019. 1 Norway Stabunger university
- 〈国内学会〉**
- 〈学会講演・発表〉**
- 秋田喜代美, 2018「赤ちゃんを取り巻く環境を考える」日本赤ちゃん学会第18回学術集会大会リレー講演「発達の予兆：赤ちゃん学から保育の未来を占う」
- 宮本雄太・秋田喜代美・辻谷真知子・宮田まり子・石田佳織, 2018「子どもの活動から捉える遊び場の機能の探究：保育に関与する者の役職・活動時間に着目して」こども環境学会大会発表
- 杉本貴代・秋田喜代美・宮本雄太・宮田まり子・辻谷真知子・石田佳織, 2018「保育者は子どもの遊び場をどのように捉えているか？—2年間のインタビュー調査より—」日本保育学会第71回大会
- 安達譲・鈴木正敏・岡田優・無藤隆・秋田喜代美, 2018「園内研修の実践を検証する」日本保育学会第71回大会, 自主シンポジウム
- 天野美和子・野澤祥子・秋田喜代美, 2018「パターンランゲージによる主任保育者の実践知の可視化と共有化(2)」日本保育学会第71回大会
- 杉本貴代・秋田喜代美・宮本雄太・宮田まり子・辻谷真知子・石田佳織, 2017「保育者は子どもの遊び場をどのように捉えているか？2年間のインタビュー調査より」日本保育学会第71回大会
- 上田敏丈・椋田善之・秋田喜代美・小田豊・芦田宏・門田理世・鈴木正敏・中坪史典・野口隆子・箕輪潤子・森暢子「事業継承後の私立幼稚園園長のリーダーシップ(1)—園運営に着目して—日本保育学会第71回大会
- 大久保圭介・遠藤利彦・秋田喜代美・野澤祥子・高岡純子・真田美恵子, 2018「乳児の運動機能の発達の個人差の既定因：在胎期間・出生体重・および妊娠中の母親の生活習慣との関連」日本赤ちゃん学会第18回学術集会抄録集
- 秋田喜代美・野澤祥子・真田美恵子・高岡純子・島津明人・小崎恭弘, 2018「子育て・保育：赤ちゃんの生活を追う—乳幼児の生活と発達に関する縦断調査の挑戦—」大会企画シンポジウム, 日本赤ちゃん学会第18回大会, 東京（東京大学）
- 濱田秀行・秋田喜代美 2018「小中高校生の読書における学校等の影響：全国調査から」第62回日本読書学会大会, 発表要旨集, p33-42.東京：全林野会館, 2018.7.29.
- 一前春子・秋田喜代美・天野春子, 2018「保幼小連携における保育者から見た「ずれ」の認識」日本教育心理学会第60回総会発表論文集, PG07.
- 堀田由香里・秋田喜代美・野澤祥子・程涛・高橋治, 2018「デジタルメディアを用いた幼児の描画表現活動における創発的過程に関する検討」日本こども学会（日本子ども学会優秀発表賞受賞）
- 宮田まり子・秋田喜代美・石田佳織・杉本貴代・辻谷真知子・宮本雄太 2018「園庭の実態と実践(5)—園の組織化に着目して—」国際幼児教育学会発表
- 堀田由加里・秋田喜代美・野澤祥子・程涛・高橋治, 2019「デジタル描画活動における他児の応答行為に関する検討：4歳児と5歳児の注視対象の差異に着目して」日本発達心理学会第30回大会, 東京（早稲田大学）
- 真田美恵子・持田聖子・高岡純子・大久保圭介・小崎恭弘・島津明人・野澤祥子・遠藤利彦・秋田喜代美, 2019「0～1歳児の母親・父親の子育て否定感の関連要因—「乳幼児の育ちと生活に関する調査2017」より—」日本発達心理学会第30回大会, 東京（早稲田大学）
- 大久保圭介・真田美恵子・持田聖子・高岡純子・小崎恭弘・島津明人・野澤祥子・遠藤利彦・秋田喜代美, 2019「夫婦ペアにおける家事・育児参加のストレスへの相互影響—「乳幼児の育ちと生活に関する調査2017」より—」日本発達心理学会第

30回大会，東京（早稲田大学）

野澤祥子・真田美恵子・持田聖子・高岡純子・大久保圭介・小崎恭弘・島津明人・遠藤利彦・秋田喜代美，2019「妊娠期と子育て開始期に関する母親と父親の認識の差異の検討―「乳幼児の育ちと生活に関する調査2017」より―」日本発達心理学会第30回大会，東京（早稲田大学）

#### 〈報告書〉

（株）リベルタスコンサルティング「平成29年度子供の読書活動推進計画に関する調査研究」（平成29年度文部科学省委託調査）調査報告書，同リーフレット（調査検討委員会座長 秋田喜代美）

秋田喜代美「子どもたちの学びの様子をみとり言葉の力を育むについて考える」（29年6月15日富士市立丘小学校講演会）「主体的対話的で深い学びをデザインする」（30年1月30日富士市立丘小学校講演会）平成29年度第13回はごろも夢講演会実施報告書）56-59

秋田喜代美・神長美津子監修（財）ソニー教育財団（編）「科学する心を育てる実践事例集」第15巻 pp36.

秋田喜代美他11名「これからの時代に求められる資質・能力を育成するための幼児教育指導：豊かな創造性を育む」日本教材文化研究財団調査研究シリーズ71号，同リーフレット 2018.4 186

#### 藤江 康彦（教授）

##### 〈著書〉

藤江康彦（単著），「教育実践研究において「事実」とは何か」日本教育方法学会（編）『教育方法47教育実践の継承と教育方法学の課題：教育実践研究のあり方を展望する』，図書文化，2018，Pp.68-81.

藤江康彦（単著），「「自分の学びに自信がもてる子ども」を育む学校の創造にたちあって」東京学芸大学附属世田谷小学校（著），『学びつづけるシリーズ3自分の学びに自信がもてる子ども』，東洋館出版社，2018，Pp.16-19.

藤江康彦（編著），『質的心理学辞典』（能智正博氏編集代表・香川秀太氏，川島大輔氏，サトウタツヤ氏，柴山真琴氏，鈴木聡志氏との共編），新曜社，2018，総ページ数432頁.

##### 〈学会発表〉

藤江康彦（単著），「小中一貫校における乗り入れ授業の教師にとっての意味：中学校教師の語りの中

心に」，日本教育方法学会第54回大会（於：和歌山大学，和歌山市），2018年9月29日，日本教育方法学会第54回総会発表論文集，2018.

##### 〈講演等〉

藤江康彦（招待講演），「カリキュラムマネジメントを通して子どもの成長を学ぶ：小中一貫校における教師のカリキュラム経験を事例に」，教育実践研究フォーラム in 長崎大学 2018（於：長崎大学教育学部，長崎市），2018年11月18日.

#### 浅井 幸子（准教授）

##### 〈著書・共著〉

Kitamura, Y., Omomo, T. and Katsuno, M. eds., 2019, Education in Japan: A Comprehensive Analysis of Education Reforms and Practices, Springer. (Chapter7: Teacher Narrative Description, pp.125-141.)

##### 〈雑誌論文〉

浅井幸子「スウェーデンのレジャ・インスピレーション」『発達』156号，2018年10月，62-67頁。

浅井幸子「新教育における教師の教育研究―実地授業と実践記録―（公開シンポジウム「新しい時代の教師教育―新教育からの展望―）」『教育新世界』67号，2019年3月，18-24頁。

##### 〈雑誌論文・共著〉

浅井幸子・黒田友紀・金田裕子・北田佳子・柴田万里子・申智媛・玉城久美子・望月一枝「小学校の改革における教師のコミュニティの形成―「できない」という教師の語りに着目して―」『日本教師教育学会年報』第27号，2018年8月，110-121頁。

##### 〈学会発表〉

浅井幸子（招待講演）「新教育における教師の教育研究―実地授業と実践記録―シンポジウム「新しい時代の教師教育―新教育からの展望―」世界新教育学会国際教育フォーラム2019，2018年6月17日，神戸大学。

浅井幸子（ポスター発表）Sachiko ASAI, Motoko OHTA, Transformation of the view of the child identified in documentation: the effect of the introduction of a project method on ECEC in Japan, EECERA ANNUAL CONFERENCE, 28th, 29, August, 2018, Budapest, Hungary.

黒田友紀・金田裕子・北田佳子・浅井幸子・申智媛・望月一枝・玉城久美子・柴田万里子（研究発表）「学校における「自分の言葉」の探求―オーセン

ティシティの視点から—」日本教育学会第77回大会, 2018年8月31日, 宮城教育大学。

浅井幸子・申智媛・金田裕子・北田佳子・黒田友紀・柴田万里子・望月一枝・玉城久美子(ラウンドテーブル)「みんなが主人公になる学校づくり—教師とそのコミュニティの変容を中心に—」日本教師教育学会第28回大会, 2018年9月30日, 東京学芸大学。(台風のため中止)

浅井幸子(招待講演)「保育評価のオルタナティブ—教育ドキュメンテーションの思想—」シンポジウム「幼児教育における目標・評価論」教育目標・評価学会第29回大会, 2018年11月25日, 和光大学。

#### 〈その他〉

能智正博編集代表『質的心理学辞典』新曜社, 2018年11月(「ケアリング」(84頁), 「ナラティブ探究」(231頁), 「学びの共同体」(297頁))。

浅井幸子(コラム)「チーム学校」『教職研修』2019年2月号, 2019年1月, 60頁。

浅井幸子(エッセイ)「太田素子さんの仕事」『和光大学現代人間学部紀要』2019年3月, 236-238頁。

#### 教育内容開発コース

北村友人(准教授)

#### 〈共編著〉

Akiyoshi Yonezawa, Yuto Kitamura, Beverly Yamamoto and Tomoko Tokunaga (eds.). *Japanese Education in a Global Age: Sociological Reflections and Future Directions*. Singapore: Springer, August 2018.

Yuto Kitamura, Toshiyuki Omomo and Masaaki Katsuno (eds.). *Education in Japan: A Comprehensive Analysis of Education Reforms and Practices*. Singapore: Springer, January 2019.

#### 〈分担執筆〉

Yuto Kitamura, Takayo Ogisu and Eri Yamazaki. "Schoolteacher's Professionalism and Teacher Training in Japan: From 'Teaching Specialists' to 'Learning Professionals'" in Hobbel, N. and Bales, B. L. (eds.). *Navigating the Common Good in Teacher Education Policy: Critical and International Perspectives*. New York: Routledge, 2018, pp.100-114.

北村友人・D. Brent Edwards Jr.・Chhinh Sitha・James H. Williams「カンボジアの初等教育における就学継続の阻害要因—生徒の『語り(ナラティブ)』から読み取る—」關谷武司編『開発途上国で学ぶ子どもたち—マクロ政策に資するミクロな修学

実態分析—』関西学院大学出版会, 2018年9月, 183-214頁。

北村友人・興津妙子「質の高い教育—SDG4—」高柳彰夫・大橋正明編『SDGsを学ぶ—国際開発・国際協力入門—』法律文化社, 2018年12月, 64-80頁。

北村友人「英語によるプレゼンテーション」山内乾史編『比較教育学の研究スキル』東信堂, 2019年1月, 68-80頁。

#### 〈論文〉

Kazuo Kuroda, Miki Sugimura, Yuto Kitamura and Sarah Asada. "Internationalization of Higher Education and Student Mobility in Japan and Asia" (Background paper prepared for the 2019 Global Education Monitoring Report) UNESCO and JICA Research Institute, 2018, 57p.

Yuto Kitamura, Makiko Hayashi and Eriko Yagi. "Traffic Problems in Southeast Asia featuring the Case of Cambodia's Traffic Accidents Involving Motorcycles", *IATSS Research*, Vol.42, 2018, pp.163-170.

#### 〈項目執筆〉

「アジアの大学」児玉善仁他編『大学事典』平凡社, 2018年6月, 107-110頁。

#### 学校開発政策コース

勝野正章(教授)

#### 〈著書〉

勝野正章「グローバル化の中の学力向上政策」日本教育経営学会編(浜田博文・勝野正章・山下晃一編集委員)『講座 現代的教育経営1 現代的教育改革と教育経営』学文社, 2018年6月, pp.48-59.

勝野正章「教師の専門性と高度化」日本教育経営学会編(北神正行・元兼正浩・本図愛美編集委員)『講座 現代的教育経営5 教育経営ハンドブック』学文社, 2018年6月, pp.104-105.

勝野正章「『学校における働き方改革』の問題点」日本子どもを守る会編『子ども白書2018』本の泉社, 2018年8月, pp.142-143.

Katsuno, M. The relationship between teachers' working conditions and teacher quality in Kitamura, Y., Omomo, T. and Katsuno, M. (eds.) (2019) *Education in Japan: A comprehensive analysis of education reform and practices*, Singapore: Springer, pp. 87-104

#### 〈雑誌論文〉

勝野正章「教育・エビデンス・教育政策」『日本教育行政学会年報』No.44, 2018年10月, pp.209-212

勝野正章「教育改革と軌を一にするスタンダード作成の流れ」『体育科教育』2018年10月号, pp. 40-43

勝野正章「日本の学校教育の魅力」『学校運営』No.687, 2018年10月号, pp.12-15

勝野正章「教師らしさ」『学校運営』No.690, 2019年1月号, pp.8-11

#### 〈学会発表〉

勝野正章「学校は『子供の貧困』対策のプラットフォームになりうるのか」日本教育政策学会第25回大会「課題研究：教育と福祉の統一的保障をめぐる教育政策の課題と展望」2018.7.8, 専修大学

Katsuno, M. How do teacher evaluation practices affect school leadership? 日英教育学会第27回大会公開シンポジウム「スタンダード化時代の教育リーダーシップ スタンダードと評価に基づく教育改革を問う」2018.8.27, 実践女子大学

#### 橋 野 晶 寛 (准教授)

##### 〈著書〉

橋野晶寛 (分担執筆), 「教育財政」『教育制度を支える教育行政』(青木栄一編), ミネルヴァ書房, 2019, pp.173-188.

##### 〈雑誌論文〉

橋野晶寛, 「教育政策分野における付加価値モデルの方法的論点」『北海道教育大学紀要. 教育科学編』69巻2号, 2019, pp.59-72.

##### 〈その他〉

橋野晶寛, 「頻出教育調査の動向：全国学力・学習状況調査①」『教職研修』2018年10月号, 2018, p.127.

橋野晶寛, 「頻出教育調査の動向：全国学力・学習状況調査②」『教職研修』2018年11月号, 2018, p.127.

橋野晶寛, 「頻出教育調査の動向：全国体力・運動能力調査」『教職研修』2018年12月号, 2018, p.127.

橋野晶寛, 「頻出教育調査の動向：国際学力調査① PISA」『教職研修』2019年1月号, 2018, p.127.

橋野晶寛, 「頻出教育調査の動向：国際学力調査② TIMSS」『教職研修』2019年2月号, 2019, p.127.

橋野晶寛, 「頻出教育調査の動向：人事状況行政調査①」『教職研修』2019年3月号, 2019, p.127.

#### 学校教育高度化・効果検証センター

#### 中 村 高 康 (教授)

##### 〈著書〉

中村高康 (単著), 『暴走する能力主義 教育と現代社会の病理』, ちくま新書, 2018, 総頁数237.

中村高康 (編著), 『教育と社会階層 ESSM全国調査からみた学歴・学校・格差』(平沢和司, 荒牧草平, 中澤渉氏との共編), 東京大学出版会, 2018, 総頁数231.

Takayasu Nakamura, "Achievements and Future Callenges in Japan's Sociology of Education: Socialization, Pedagogization, and Resocialization" A. Yonezawa et al. eds. *Japanese Education in a Global Age: Sociological Reflections and Future Directions*. Springer, 2018, pp.263-280.

##### 〈雑誌論文〉

中村高康 (単著), 「相対的学歴指標と教育機会の趨勢分析—2015年SSM調査データを用いて—」, 『理論と方法』33(2), 日本数理社会学会, 2018, pp. 247-260.

##### 〈その他〉

中村高康 (単著)「教育社会学」「新しい教育社会学」能智正博編集代表『質的心理学辞典』新曜社, 2018

中村高康 (単著)「Book Review『危機のなかの若者たち 教育とキャリアに関する5年間の追跡調査』」『IDE現代の高等教育』(603) pp.70-71, 2018

中村高康 (単著)「なぜ日本人は「コミュニケーション能力至上主義」に陥ったのか 出口なき〈能力不安〉に苛まれて…」『現代ビジネス』2018年9月

SYNODOS編集部「なぜわれわれは「新しい能力」を強迫的に追い求めるのか?『暴走する能力主義』著者, 中村高康氏インタビュー」『SYNODOS』2018年11月

中村高康 (単著)「入試改革に問われているもの」『IDE現代の高等教育』(608), pp.35-40, 2019

#### 高 橋 史 子 (助教)

##### 〈著書〉

Tokunaga, T, Nukaga, M., and Takahashi, F., (2018). "Growing Up in Multicultural Japan: Diversifying Educational Experiences of Immigrant Students", In A. Yonezawa, Y. Kitamura, B. Yamamoto, and T. Tokunaga, eds., *Education in Japan in a Global Age: Sociological*

*Reflections and Future Directions*. Springer.155-174

〈雑誌論文〉

高橋 史子（単著），「誰を「日本人」らしいと見なすのか：多文化社会におけるナショナルアイデンティティと教員」，『東京大学大学院教育学研究科紀要』第58巻，2019-3，563-582.

〈口頭発表〉

Fumiko Takahashi. “Immigrant Education in Japan: Current Problems, Initiatives, and Academic Implications”. Joint Seminar of Stockholm University, University of Jyväskylä and The University of Tokyo on “Towards the Realization of Sustainable Feature”, Stockholm University, Sweden, 2019年 2 月21日

Fumiko Takahashi. “Diversity and Equality in Education: Educational Equality for Immigrant Children in Japan”, 日本教育学会第77回大会 課題研究II Education and Politics in a Global Age. 2018年 9 月 1 日

〈辞書〉

高橋史子（2018）「演繹的コーディング」「帰納的コーディング」など 4 項目 能智正博編集代表『質的心理学辞典』新曜社